

第19回ジャパクラシック ベンチプレス選手権大会

2019年1月19-20日、大浜体育館

報告・写真：IPF国際審判、物江 毅

アジアオセアニア 59kg級優勝、

藤田雄次

平成30年度ジャパクラシックB P選手権大会（以下JCBPと略す）は、1月19、20日の両日、大阪府堺市大浜体育館で開催された。日本のパワーリフティング & ベンチプレス公式戦に於いて、恐らく過去最高と思われる518名のエントリー（欠席者35名）、主管の大阪協会 & 近畿ブロック役員の皆様の大変さは如何ばかりであったらうか、「本当にお疲れ様 & 有難うございました」と感謝申し上げる。

今回あまりに、エントリー数が多かったため、大会レポートの半分強を埼玉協会・ストロングライン所属・桃太郎軍団 藤田雄次氏にお願いした。藤田さんは59kg級で日本指折りのベンチプレッサーで、かつ、B Pの語り部である。ご自身のFacebookタイムラインに、全日本大会の順位 & 展開予想を各階級ともレポート用紙4、5枚に及ぼうかという膨大な筆量で展開しておられ、長い文章を書く気力が、年々低減している私にとって、羨むべきライター & リフターである。

ただし、これだけの規模の大会、全階級をレポートする事はレポーターが二人でもほぼ不可能に近いと思われたので、主に一般クラスをメインに報告させていただく。

43、47kg級（レポーター 物江）

43kg級 JR は、一人が欠場し和田桃子選手（大阪 個人）一人の出場となり42.5kgで優勝。

47kg級の優勝候補筆頭・小林ナオコ選手（湘南ベンチプレッサーズ）は、昨年はボディビルに専念してJCBPは二年ぶりの出場となる。



1月18日金曜日の夕方に、会場の大浜体育館の下見の際、私の前を高田総帥率いる湘南ベンチプレッサーズの方々歩いておられ、その中に小林さんもおられた。少しお話をしたところ

「折角日本で世界BP大会が開催されるので、是非とも出場したいと思います。（世界大会に）出場出来たら強豪選手と戦って結果を残したいですね」

と語っておられた。

ナオコさんは、体重45kg前後で100kgのBPをプレスし、IPFの殿堂入りをされた日本PL界の至宝・同年齢の福島友佳子選手とも交流があり、ボディビル大会でも優勝しておられる日本クラシックBP界のスーパースター

で、二年前に出場された世界クラシック BP 選手権大会でも、見事に優勝されている。小柄だが、その引き締まった身体は闘志の塊である。

試合が始まると、ナオコさんは、第一試技 90kg を軽々と決め、その時点で二位の選手に 27.5kg 差をつけほぼ優勝確定、第二試技の日本記録 96kg は、白 1 : 赤 2 の失敗であったが、第三試技で同重量を完璧に決め、優勝 & 日本記録及び WCBP 大会出場権をゲットした。

同クラスで二位に入ったのは、齋藤敬太選手率いる BURST LIMIT のアイドル JR とダブルエントリーした宮崎優花選手、60-67.5-70 と三試技とも成功し JR 優勝と WCBP 出場権をゲットした。愛称・ザッキー、宮崎さんはとてもキュートで可愛いリフター、後述する齋藤敬太さんの試技の際には、重量申請 & 変更で大活躍をした。三位には滋賀協会・LAKE SIDE POWER 所属の西村政子選手 (M1 は 2 位)、65kg という結果となった。

このクラスの M2 では宮本智子選手 (スポーツクラブ ヴィテン) と餘語るみ選手 (マッスルプロダクション神戸板宿) の世界マスターズ BP 大会チャンプ同士が対決、75-80-83 (M2 日本新) と三試技とも成功した宮本さんが優勝、餘語さんは 62.5kg で 2 位、3 位にはこれも世界大会定連の柴田昌美選手 (ストロングライン) が 57.5kg で入った。

同クラス M4 では大ベテラン・菊入広子選手 (パワーハウス) が 50kg の日本新記録で優勝した。

52kg 級 (レポーター 物江)

このクラスはマスターズと一般・SJR・JR の 2 グループでの試技となった。私は一般以外クラスの副審、一般の主審を務めさせていただいた。

マスターズの部で目立ったのは、久しぶりの全日本大会出場、日本ノーギア PL&BP 界の女王・古屋典子選手 (横濱ベンチラバース) が格の違いを見せつけ 80-85-87.5 と三試技成功で圧勝した。

一般の部のエントリーを見たところ全日本 BP 大会で毎回白川カオリ選手と死闘を展開している BP 界のアイドル・伊賀梓選手 (チーム岡山)、こちらも全日本 BP 大会定連の藤原のどか選手 (明石ベンチプレス同好会)、アームレスリング日本チャンプ・西川亜紀子選手 (チーム鉄腕 M1 とダブルエントリー)、JR とのダブルエントリーで進境著しい菊地雅選手 (TXP) の上位争いになるものと予想できた。

試合が始まると、第一試技西川さんが 72.5kg に失敗した以外は、菊地さん 72.5kg、藤原さん 75kg、伊賀さん 80kg に成功。第二試技で西川さんが 72.5kg に成功し、菊地さんは 77.5kg に成功、藤原さん 80kg に失敗、伊賀さん 85kg に成功、ここまでの暫定順位で伊賀さんが一歩リードした。

第三試技、藤原さん、菊地さんはともに 80kg を申請、伊賀さんに勝負を挑まず、お二人とも同重量に成功、100g の体重差で藤原さん 2 位、菊地さん 3 位が確定。優勝を決めた伊賀さんは果敢に 100.5kg の日本記録に挑戦した。梓さん、とても気合が入った表情でベンチラックに横たわる。主審・物江のコールがかかる「スタート!」「プレス!」バーは残念ながらステッキングポイントで止まり試技終了となったが、あと一歩の試技であった。

翌日、梓さんにご主人の岡村さんとのツーショット写真を撮らせていただき、私の Facebook タイムラインに掲載させていただいたところ、あっという間に 100 名以上の「いいね」をいただく結果となった。アイドルの素敵な笑顔の効果は絶大であった!



57kg 級 (レポーター 藤田)

今年是一般女子 57kg 級が当たり年だ。

女子はまだまだ選手層が男子と比較して多いとは言えないため、毎年強者が集まる階級が変わる。

そんな中、フォーミュラランキングトップ 10 の中に 57kg 級の選手が 3 人も連ねているあたり、強い選手が集まった階級と言える、

日本記録を持つ福島選手、富山選手、中野選手の強さが特に光った。福島選手は第 2 試技で 102.5kg で優勝を確保。

これから第 3 試技重量を決める、

というタイミングで同時進行している女子 47kg 級に異変が起こる。

MVP 候補の小林ナオコ選手が第 2 試技 96kg を失敗してしまう。

ここからセコンドである福島夫が走る。

福島選手に MVP を取らせる試技重量の計算だ。

- ・小林選手の重量 90kg をギリギリ超える重量
 - ・今回のフォーミュラ計算は旧 Wilks スコアか、それとも新しい計算方法か
- 上記を考慮して選択した重量は 106.5kg。

結果的には失敗してしまうが試技・セコンド共に素晴らしい内容であった。

2 位の富山選手も検量 54.7kg と余裕のある検量で第 3 試技に 100kg を挑戦するほどの強者。

日本に 57kg 以下で 100kg を決めた選手は歴代 5 人もいない。

是非とも次回決めてほしい。

3 位の中野選手で印象に残ったのは試技に入る前の振る舞い。

ベンチ台に立ち、全身をリラックスさせた状態で試技に臨む。

試技も「無駄が無い」と表現すれば良いのか。上手い。

バックボーンにノーリミッツのレッシュ理論が流れていることが明白だ。

このまま 100kg オーバーを期待したい。

63kg 級 (レポーター 藤田)

この階級は前年度覇者、石橋選手がいる階級だ。

しかし検量がおかしい。たったの 57.1kg。

おそらく本来は 57kg 級で出場したいところを、確実に日本代表を勝ち取るために、福島選手と階級を別れるために 63kg 級にエントリーしたのであろう。

そして特筆すべきはブリッジの高さ。元々女子選手全般に柔軟性に恵まれているため、どの選手も男子と比較してブリッジが高い傾向にあるが石橋選手は段違いである。

「何センチバーが動いているの？」というレベルでバーが動かない。肘も曲がらない。

そんな魅惑のフォームで第 2 試技で 105.5kg を決めて優勝を決める。

第 3 試技は惜しくも 110kg を失敗するが、前年度の記録 97.5kg と比較して、体重も落としてつつ重量も 8kg 伸ばすというまだまだ先が楽しみな選手である。

72kg 級 (レポーター 藤田)

この階級は女王徳武選手に山下選手が追いかけるという展開だ。

第 2 試技の時点で徳武選手は 100kg を決める。ほぼ優勝は確定だろうというところ。

しかし第 3 試技、山下選手も体重差で 100kg を挑戦する。

山下選手も検量 63.35kg という兎に角軽い。聞くところによると検量寸前で水分で無理やり 63kg を超えるように調整したとのこと。

殆ど 63kg 級の身体で 100kg に挑む。

プレス後バーは重そうながらも着実に挙がりフィニッシュ。白 2 本の成功である。

この重量は大会用に上げていなかったらしく、成功判定に本人もビックリしていたことが印象的であった。

続いて第 3 試技の徳武選手、102.5kg を決めれば逆転トップというところであるが、今回は決めきれず第 2 位。

しかし M2 の日本代表は確保できているため、102.5kg は世界大会で決めてほしい。

72kg 級を制した山下選手、2018 年 11 月にオープンした 8suki gym で女性限定でパーソナルも行なっている。

強くなりたい女子選手は是非ともお勧めしたい。

84kg 級 (レポーター 藤田)

この階級は参加者が田島選手のみ。

2019年の世界大会で日本代表権を獲得するために、各女子選手が階級変更の様子を度々見てきたが、田島選手が一番その代表権獲得に貪欲だったのでは無いか。

田島選手の去年度の階級は63kg級。今回は84kg級へエントリー。1年で20kgも増量した選手だ。

特にフルギアでは記録を1年で約50kg伸ばして165kgの日本記録を2018年10月に決めている。

今大会では95kgまで仕上げた状態で大阪にやってきた。

そして当日、試合で使用されるエレコ台が普段練習しているエレコ台より1cm高いことにより「もう少し攻めた試技が出来る」と判断した田島選手は急遽フォームを微調整をして、練習で決めたことのない97.5kgに挑戦する。作戦は見事ハマりしっかり白3本で自己ベストである97.5kg成功。

石橋選手に続いてノーギア・フルギアで二冠となった。

田島選手は筆者から見て、異常なくらい練習動画を見る。文字通り寝る間も惜しんで自分の試技を研究する。

今回の97.5kgは第2試技90kgの挙がりのスムーズさを地区大会での挙がりと比較して、イけると判断して踏み切った結果であった。

そんな田島選手、所属ジムであるBIG FIVEと3RE ≡ BODY 大和店(フルギア溝口選手のジム)でベンチパーソナルを行っており、世界大会後には埼玉に自身のジムオープンも考えている。

強くなりたい男子 & 女子選手は是非ともお勧めしたい(最後のくだりが山下選手と同じになってしまった)。

84kg 超級 (レポーター 藤田)

最重量級となる84kg超級は小松選手が検量100kgオーバーで3試技共成功し、82.5kgで世界大会の切符を獲得した。

一般男子 59kg 級 (レポーター 藤田)

今年の59kg級はハイレベルだった。

2011年～2016年まで連覇を続けた東坂選手はケガで欠場している。

そんな絶対王者の欠場を感じさせないレベルの高さを観客に見せ付けた。

まず大会前時点で150kg以上のパーソナルベストを持つ選手が7名いる。

小笠原選手 : 160kg
野田選手 : 157.5kg
井上選手 : 157.5kg
久米選手 : 155kg
村上選手 : 155kg
森木選手 : 152.5kg
藤田選手 : 152.5kg

また、昨年度の59kg級の3位の記録は152.5kg。

もはや150kg少々では6位入賞圏外に飛ばされるレベルとなっている。

まずは各選手順当に第一試技を成功させる。

小笠原選手 : 155kg
野田選手 : 152.5kg
井上選手 : 155kg
久米選手 : 157.5kg



村上選手 : 145kg
森木選手 : 150kg
藤田選手 : 150kg

各選手決して安全な重量では無い。パーソナルベストに近い重量を軽々決める。
特に久米選手に至っては、第一試技の 157.5kg を凄まじい軽さで観客を沸かせた。

続いて第 2 試技。

小笠原選手 : 160kg
野田選手 : 157.5kg
井上選手 : 160kg
久米選手 : 162.5kg
村上選手 : 155kg
森木選手 : 160kg
藤田選手 : 155kg

ここからは試技重量順に記載する。

この時点でパーソナルベスト更新 or ベストタイと全選手一步も引かない展開。

野田選手が唯一 157.5kg 失敗となるが、81cm ラインが見えていてフォームを短時間で組み直した為、リズムが崩れたとのこと。しかし第三試技を同重量として着実に攻める。

藤田選手と村上選手は 155kg を確実に決め第 3 試技を一旦 157.5kg とするが、第 2 試技終了時点で同重量を成功させても 5 位にしかない事をみて 160kg へ重量変更した。

埼玉の隠れ実力者井上選手も 160kg を成功。まだ余裕があるように見える。暫定 1 位をかけて 162.5kg を申請する。

体重にアドバンテージにある小笠原選手も 160kg を粘りの成功。実は小笠原選手、今回のコンディションはベストでは無く、検量もここ数年で一番軽い 56.35kg だったが第 3 試技に 165kg を申請。

本来であれば 162.5kg でも暫定 1 位になれるが、ここは漢を見せる試技重量選択である。

同じく森木選手は自身のベストを 7.5kg を上回る 160kg を軽々クリア。体重差を考慮して井上選手を 2.5kg 上回る 165kg を申請する。

そして優勝候補筆頭の久米選手、第一試技同様 162.5kg を空気とも言わんばかりに軽々と差し切り白 3 本。

第三試技を日本記録である 168.5kg を申請する。

勝負の第 3 試技。

小笠原選手 : 165kg
野田選手 : 157.5kg
井上選手 : 162.5kg
久米選手 : 168.5kg → 167.5kg
村上選手 : 157.5kg → 160kg
森木選手 : 160kg
藤田選手 : 157.5kg → 160kg

まず野田選手、先ほど失敗した 157.5kg を安定して差し切り成功。

本来 160kg まで準備していたとの事だが、戦局を読んでこの重量でフィニッシュ。

続いて藤田選手、桃の総帥松永選手の声援の中 160kg に挑むが後半分のところで失敗。所詮この程度の選手である。

村上選手に至っては 160kg は準備していなかったと言いつつも、なんとか差し切り判定へ。惜しくも白一本と次回成功を期待させる素晴らしい試技であった。

ここからの試技が成功有無でトップが入れ替わる。

この時点で暫定トップは第2試技に成功させた久米選手の162.5kg。

まずは井上選手が体重差で暫定トップを狙う162.5kgに挑戦し、これを危なげなく成功。

昨年度最終試技者として同重量に挑んだがプレス後ビクともせず「異次元の重さでした」と語っていた彼だが、度々指摘される肘の曲がりも修正し、一回り強くなって帰ってきた。

井上選手はパワーリフターでもあり、今後の成長がますます楽しみである。

続いて小笠原選手が165kgに挑戦するが、惜しくも失敗。しかしマスターズ1の1位を死守し、今年開催の成田行き切符は手にすることができた。

残りは森木選手の165kg、久米選手の168.5kg。

森木選手、なんと165kgをあっさり決めてしまう。軽い。これはセコンドのマッスル陣営も驚く。

20歳前でフォーミュラ140オーバはこれまでに無い快挙である。2017年に本堂選手が大幅更新した日本ジュニア記録163kg更新がここまで早いとは誰が予想できたであろうか。

本堂選手が同重量を決めた世界クラシックベンチで森木選手はサブジュニアで135.5kgを成功させているが、わずか2年足らずで約30kgの成長を遂げる。

近い将来森木選手の時代が来ることだろう。

そして大トリの久米選手、トップを取る為に冷静に試技重量を167.5kg変更。

優勝を決める試技、全選手固唾を呑んで見守る。久米選手、これをなんとまるで第一試技かのような軽さで決めてしまう。

場内も騒然。久米選手も優勝が確定し歓喜の涙を見せる。

昨年度まで66kg級としてトップ3までは何度も経験していたが、今年から59kg級へ階級を落とし、初優勝に輝いた。

また、74kg級児玉氏から筆者へ「167.5kgがああ軽さなら、世界クラシックで175kgの世界記録を持つロシア選手ウラジミール打倒にワンチャンスあるぞ」と素晴らしい言葉ももらった。

結果として、久米選手1位、森木選手2位、井上選手3位、小笠原選手4位、野田選手5位、藤田選手6位、村上選手7位と言う形でフィニッシュ。

66kg級 (レポーター 物江)

このクラス、一般の部では、200kg以上挙上している試技ビデオを公開している平成の怪物・本堂正達選手(個人)に、斎藤敬太選手(BURST LIMIT)、福田将志選手(ストロングライン)等の有力選手がどの様に挑むか、また、全国的な知名度はないが180kg挙上出来る高橋勇二選手(帝京平成大学BPC)の大穴の一発があるか注目のセッションであった。

第一試技、本堂さんを除く各有力選手は、福田さん162.5kg、高橋さん165kg、斎藤さん167.5kgとやや控えめな重量を申請して、順調に成功。本堂さんは、彼にしては控えめな180kgに挑んだ。見守る観衆が軽く成功するであろうと予想したこの試技、本堂さんは潰れてしまった。どうも足場が滑り踏ん張れないようだ。ただ、条件は他の選手も同等なので、本堂さんの靴かフォームが第二コートプラットフォームに合わないののだろうか？

第二試技、福田さん170kgを綺麗に決め、高橋さんは172.5kgに失敗、斎藤さんは175kgを軽々と決める。ここ2年ほど不調であった斎藤さん、今大会は以前の強さが復活したように思えた。本堂さんは180kgをまたも押し切れず、第二試技終了時点の暫定順位は、1位斎藤さん、2位福田さん、3、4位同重量体重差で山村喜代将選手(チーム愛知)、高橋さんという事になった。

注目の第三試技、山村さん170kg、高橋さん172.5kgをいずれも失敗、福田さんも177.5kgを惜しくも押し切れず、この時点で3位以内の順位が確定。ここで2位以内が確定、180kgを申請していた斎藤さんが二度目の重量変更で182.5kgを申請し、最終試技者となることを選択。本堂さん三度目の180kgに挑むも、足が滑り踏ん張れず失敗。

優勝が決まった斎藤さんは、プラットフォームにアプローチする段階で、すでに大変な気迫、オーラが出ているように思えた。試技は右がやや遅れたが見事に182.5kgを押し切り、白3判定。BURST LIMITの皆が歓喜に包まれた。

74kg級 (レポーター 物江)

このクラスの一一般の部、私は副審を勤めさせていただいた。

Mr.BP・児玉大紀選手の圧勝であろうと、誰もが予測していたが、脅威の新星の登場で、第三試技のラスト二試技は大変な盛り上がりとなった。

その新星とはカレンダーイヤー 27歳の白木翔吾選手、所属はマッスルプロダクションと記載されていたが、セコンドには選手宣誓をした8suki gymの山下保樹・彩ご夫妻が付いていた。白木選手のフォームが凄い。男子選手としてはあり得ないブリッジと身体の柔らかさで挙上距離は10cm程度、関東の人気者・松永浩二選手の尻上げ220kgフォームに酷似しているが、臀部はベンチに付いている。

児玉選手が第一試技187.5kg、第二試技195kgを決めた時点で優勝は決まりと誰もが思っていたが、175-182.5に成功し、第二試技終了時点で二位につけていた白木選手が第三試技205kgを申請して児玉さんに被せてきた。体重は児玉さんが550g軽い、ロットNoが若い児玉さんは207.5kgに重量変更、すると白木選手が再び207.5kgに重量変更して被せてきた。ここで児玉さんは210kgに再変更して、最終試技者となる事を選択し白木さんの試技が始まった。副審の私と、宮本智子さんが、横たわった白木さんの臀部がベンチに付きを確認時点で手を下ろし、試技開始。

久米主審のコールが入る「スタート!」「プレス!」、白木さんは10cmの挙上距離を最後まで押し切った「ラック!」判定はプレス途中で臀部が浮き、副審二人が赤判定、惜しくも失敗であった。

優勝が決まった児玉さん、210kgは押し切れなかった。

このクラス3位には第二試技でリプレイがかかり残り1秒でスタートがかかった180kgを粘って押し切った染谷成亮選手(KING BULL)が入った。

一般男子83kg級 (レポーター 藤田)

昨年度と大きく異なる点として、今年は74kg級から階級変更してきた83kg級現世界記録保持者で日本人エースの鈴木佑輔選手が出場する。

その為昨年度まで200kg前後であった優勝記録が飛躍的に上がる。

鈴木選手が日本記録をどこまで伸ばすか、またそれに追従する形でフルギアチャンピオン大室選手・元日本記録保持者の福島選手の戦い。更にあわよくば上位陣を刺す三輪選手、窪田選手、浦野選手、高橋選手、菊地選手と役者の揃った戦いとなった。

まずは各選手順当に第1試技を成功させる。

鈴木選手	: 205kg
大室選手	: 192.5kg
福島選手	: 192.5kg
三輪選手	: 185kg
窪田選手	: 175kg
高橋選手	: 180kg
浦野選手	: 170kg
菊地選手	: 170kg

鈴木選手、第1試技から2位以下にトドメを刺すような重量では無い。

一方大室選手、福島選手は仲良く192.5kg。この190kgでは無く192.5kg選んだあたり、両者接戦の経験値を感じる。

下から追う選手として、「ここまで仕上げる!」と言う重量は割とキリの良い数字を目指して仕上げる心理がある。

今回で言えば190kgで仕上げた選手がいたはずだ。

そこに2.5kg被せる形で第一試技に192.5kgを選択したところが強い。

加えて検量も3~7位の全選手より軽い。

これは195kgを決めないと2人に被せることは出来ない為、下位選手としては「もう追いかけるのは諦めて4位狙いでいいや」と思わせるには充分である。

結果として、次試技以降この重量を追いかけたのは三輪選手のみとなった。

続いて第2試技、各選手攻めた重量で上位を狙う形となる。



鈴木選手 : 215kg
大室選手 : 202.5kg
福島選手 : 202.5kg
三輪選手 : 195kg
窪田選手 : 182.5kg
高橋選手 : 187.5kg
浦野選手 : 180kg
菊地選手 : 180kg

鈴木選手、215kg をしっかり押し上げてほぼ優勝確定。

やや重そうだが、本当にギリギリの時に右に傾く癖はまだ見えない。

また、215kg の重量選択の根拠は私筆者発信である (59kg ~ 74kg 級までのベストフォーミュラの暫定トップは 59kg 級久米選手の 145.89。更に 120kg 超級までの各選手のフォーミュラでそれ以上の数値で仕上げてきているか勘案した結果、215kg でフォーミュラトップを取れる重量と判断したためである)。

続いて 2 位争いの大室選手、202.5kg を第 2 試技で選択してくるのは過去の大会を見ても一番重い。是非決めたいところを粘って決める。一方福島選手は同様に粘って決めるも白 1 本。両副審から 3 番を取られているところからお尻の浮きを取られたか。

余談だがベンチプレスの判定に置いて「お尻の浮き」が一番気にされるどころと言って過言では無い。

にも関わらず 3 番 (失敗理由→その他) に分類されると番号だけでは判別が付かない為、0 番「お尻」とか作ってくれると嬉しい。

話が逸れた。

検量では大室選手の方が軽い為、福島選手は 202.5kg は失敗であったが、第 3 試技は 205kg に上げるしかない状況。

かなり追い込まれた。

続いて 4 位争いは熾烈だ。

三輪選手はパーソナルベストタイである 195kg を失敗。かなり重そうに見えた。

窪田選手は 182.5kg が軽い。これは第 3 試技も期待出来そうだ。

高橋選手は 187.5kg 失敗。この重量はダブルエントリーである M1 の暫定トップを決める為に選択した重量だと思われる。

浦野選手はじっくり時間を使って 180kg を成功。まだ余裕がある。

菊地選手も 180kg を粘りながらも成功。74kg 級フルギアで児玉選手を追い詰めた勝負強さは第 3 試技でどうなるか。

勝負の第 3 試技。順位確定の為に目標順位に沿った重量を定める。

鈴木選手 : 227kg (日本記録 & 非公認世界記録)
大室選手 : 205kg
福島選手 : 205kg
三輪選手 : 195kg
窪田選手 : 187.5kg
高橋選手 : 187.5kg
浦野選手 : 185kg
菊地選手 : 185kg

優勝が確定した鈴木選手。日本記録 & 世界記録が 222.5kg に対して 227kg とやや中途半端な重量。

その理由はこれはポンド計算をすると 500 ポンドになるとのこと。

世界から注目されている鈴木選手らしさが伺える。

しかしこの重量半分程度拳がったところで失速。83kg 級を 500 ポンドの領域へ連れて行ってくれるのは次回だ。

2位争いの大室選手と福島選手。

どちらも第2試技が決して軽そうでもないに関わらず、両者205kgを決める！

しかし大室選手は白3本に対して福島選手は白1本。

福島選手は第2試技より挙がりかスムーズだったのにも関わらず失敗。

細かい部分は私の角度からはわからなかったがお尻など攻めるべき部分を攻めた結果であろう。

本人も白1本の判定に「想定通りです！」と爽やかにギャラリーを沸かせた。

一方大室選手。順位が決まった状態で205kgをギリギリながらも成功。

しかしたればの話になるが、もし鈴木選手が第1試技のみの結果であったら、体重差(鈴木選手：79.65kg、大室選手：79.6kg)で大室選手に軍配が上がっている。

人伝いで「体重が増えなかった」と大室選手が語っていたそうだが、あわよくば1位を狙うために準備した、と私は解釈している。

熾烈な4位争い。この時点で暫定4位は三輪選手の185kg。

ここからは軽い重量順で記載する。

まずは菊地選手の体重差を狙った185kgは惜しくも失敗。今回は180kgという記録だが階級が上がったばかりであることから、今後83kg級に身体が馴染んだ時が楽しみな選手である。

続いて菊地選手同様体重差を狙った浦野選手の185kg。第1、2試技と同様残り時間10秒を切るあたりまでじっくりフォームを組んでスタートがかかる。高いブリッジと力強い試技で押し上げる。白3本成功である。

昨年度のジャパクラシックで74kg級としてエントリーし、暫定4位をかけた172.5kg失敗の悔し涙を見てから「必ず浦野選手は成長してこの場に戻ってくる」と確信していたとおり、今年はその勝負の重量を成功させた瞬間に立ち会えたのは私も飛び上がる程嬉しかった。

続いて高橋選手は第2で失敗した重量を取り返せず187.5kgを失敗。高橋選手はジャパクラシックになると地区大会と攻め方が一気に変わる。

地区大会では成功試技を重ねつつベストを狙う、と言う攻め方だが、ジャパクラシックでは第1試技から勝負を仕掛けてくる。

結果今回は第1試技のみとなったが昨年度の175kgから5kg成長している。加えて10月の関東大会ではケガをした状態で参戦しており、今回も決して予定通りの仕上がりにではなかったであろう。今回の経験値と全開に仕上げた状態の高橋選手を来年度期待している。

そして窪田選手、第2試技までの挙がりから一番決める可能性が高そうな印象であったが、勝負の187.5kgを完璧に決めてきた。

窪田選手も昨年度のジャパクラシックから5kg記録を伸ばしてきた。次は190kg台を我々に見せてほしい。

最後に三輪選手は第2で失敗した195kgを第3試技も失敗。次回のジャパクラシックパワーでリベンジを期待している。

結果として、窪田選手4位、浦野選手5位、三輪選手6位、高橋選手7位、菊地選手8位、と言う形でフィニッシュ。

最後に1人だけ。今回185kg三振で失格してしまった丹羽選手。荒い試技ながらも200kgまで仕上げてきた注目の若手選手である。

ナローグリップの力強い試技を見せてくれたが、今回は思うように力が出せなかったようだ。

しかし本堂選手同様、強い選手の1度や2度の失敗に対して周囲は「次どれくらい修正して強くなって戻ってくるのか」と期待する。

是非この大舞台の失格をガソリンにして次回リベンジを果たしてほしい。

一般男子93kg級 (レポーター 藤田)

この階級は3連覇中の絶対王者長谷川選手と昨年2位の齋藤選手との戦いが見所だ。

長谷川選手は10月の全日本ベンチでは残念ながら失格してしまう。昨年度の全日本ベンチではMVPに輝いたと言うのにフルギアベンチは恐ろしいものである。

その雪辱もあり、今回のジャパクラシックベンチは例年とは違う緊張感で挑んでいたはずだ。

まずはトップ層の第1試技

長谷川選手 : 200kg

齋藤選手 : 195kg

綿島選手 : 190kg
武田選手 : 180kg
吉川選手 : 175kg
梁本選手 : 180kg
松永選手 : 160kg
義田選手 : 170kg

この時点では危なげなく決める。各選手の底はまだ見えない。

ただ2点ほど。

1点目はジャッジについて。副審が良く見ている。正面からは危なげなく挙がっている重量でも白2本が度々見られる。

これは各選手としては攻めて行きたい気持ちに少しブレーキがかかり「しっかり決まる重量を選択しよう」と言う考えになるのではないか。

2点目は長谷川選手の重量選択だ。

昨年は第1試技を207.5kgだったが今年は200kgに落としている。200kgの挙がり自体は軽いが、どうやら故障を抱えた状態で出場している模様である。

これは厳しい戦いとなりそうだ。

続いて第2試技

長谷川選手 : 207.5kg
齋藤選手 : 205kg
綿島選手 : 195kg
武田選手 : 182.5kg
吉川選手 : 180kg
梁本選手 : 177.5kg
松永選手 : 175kg
義田選手 : 180kg

長谷川選手、齋藤選手は明暗が分かれる試技となった。

長谷川選手は207.5kgを挙げ切るも主審のみの白1本。

一方齋藤選手はまだ余裕のある試技で205kgを白3本で決める。

長谷川選手は一気に追い込まれた。

綿島選手はパーソナルベストとなる195kgに挑戦したが、途中まで挙がったところで右に傾き失敗する。

武田選手はマスターズ1の日本代表権確保のために第1試技から2.5kgプラスの182.5kgを凄まじい軽さで決める。まだ底が見えない。

吉川選手はやや詰まりながらもきっちり180kgを決めて暫定5位。

梁本選手もまだ余裕を見せつつ177.5kgクリア。

松永選手は合図前に右手81cmラインが見えたためリプレイスがかかるが、落ち着いて時間内に試技を決め順位争いに望みを繋げる。

実は松永選手、2016年東京開催のジャパングラシックでも同重量で全く同じ指摘を主審から受けている。今回はその経験が生きて冷静に試技することができたのであろう(そもそも同じミスはするな、と言うツッコミもあるが)。

義田選手もやや重そうに挙げながらも180kgを白3本で決める。

4～8位争いはこの時点で誰が制するか全く読めない。

運命の第3試技

長谷川選手 : 210kg
齋藤選手 : 210kg

綿島選手 : 200kg
武田選手 : 205kg → 192.5kg
吉川選手 : 185kg → 182.5kg
梁本選手 : 182.5kg
松永選手 : 180kg
義田選手 : 185kg

長谷川選手は失敗した 207.5kg をジャンプして 210kg にトライ。おそらく齋藤選手の 205kg の軽さを見て例え 207.5kg を成功させたとしても体重差で交わされることを案じたのであろう。

通常の長谷川選手なら 210kg は第 1 試技 or 第 2 試技で決められる重量。

しかしリプレイスがかかりルーティンが崩れる。なんとかスタートはかかったが胸から浮かず失敗に終わる。

フルギアに続いてノーギアでも勝てなかった長谷川選手。来年度は試練の 1 年となりそうだ。

今年 1 年しっかりケガの治療、更なる進化を遂げてまた力強い試技を見せてほしい。

一方この時点で優勝が決まった齋藤選手。自身のパーソナルベストとなる 210kg に挑む。

試技前の気合いの声と共にフォームを組む。バーはスムーズに挙がり白 3 本で成功である。

今回は齋藤選手の完全勝利となった。

大会前に聞いていた情報としては、齋藤選手も三頭筋に故障を抱えており試技に不安があったそうだが、それを感じさせない見事な試技であった。

2018 年 2 月に児童発達支援・放課後等デイサービス「ほみいくらぶ」をオープンした齋藤選手。

新しい環境になってもしっかり重量を伸ばしてきており、今後の更なる成長が楽しみだ。

3 位を確定させた綿島選手は第 2 試技の 195kg とほぼ同じ場所でやや右に傾いてバーが止まってしまい失敗。

逆に 195kg でも 200kg でもある程度までバーが挙がり右に傾く。これは精度を高めればどちらも成功できたのでは、と期待させる。

次回こそ 200kg の大台に乗せてほしい。

4～8 位争いは試技重量の順で記載する。

まず松永選手。

暫定 5 位狙いで 180kg を選択。83kg 級時代に決めている重量だが、何故か世田谷ベンチでしか 180kg 以上の重量が決まらない一面を持つ。

今回は大舞台でそのジックスを壊すことが出来るか。第 2 試技とは異なりグリップの指摘も受けることなく合図がかかる。そしてバーは第 2 試技よりもスムーズに挙がっていきあっさり白 3 本。

まずは暫定 5 位を確保して後続選手の結果を待つ流れとなった。

続いて梁本選手。

第 2 試技の 177.5kg は充分な余裕を見せてクリアしていたため、この試技も成功率は高いのではないか、というところでギャラリーが見守る。

バーは若干左に寄りながらも完璧に挙げきって白 3 本。今年度全日本ベンチ 2 位の堅実な試合運びをクラシックでも見せてくれた。

現在梁本選手が暫定 5 位となる。

ここで 185kg の重量選択をしていた吉川選手が重量変更し 182.5kg に重量を落とす。

体重差でこの重量が決まると暫定 4 位となる。

第 2 試技は重そうに白 2 本を挙げていたため、やや難しいか、と思ったが第 2 試技同様粘りながらもきっちりこの重量を決めて白 3 本。

流石失敗試技でゴった返した全日本ベンチ 93kg 級の覇者。ここ一番の勝負強さを持っている。

しかしこの試技、セッション終了後物議を醸した。

実はロットナンバーのルール上、185kg → 182.5kg は認められないのだ。

梁本選手のロットナンバーは 449

吉川選手のロットナンバーは 447

同重量を行う場合はロットナンバーが若い順番で進める。

この場合 182.5kg を 449 の梁本選手が終えてしまったため、447 の吉川選手が 182.5kg を挑戦することは出来ないのである。

かなりマイナーなルールである。

今回改めてこの内容を記載したのは、賛否両論あると思うが「選手はしっかりルールを覚えろ」でも「事務局しっかりルールを覚えろ」という警告では無い。

正直、今回参加者が 500 人クラスで、選手も事務局も大忙しの大会において全員が全員完璧に動くことは難しかったと筆者は考える。

なのでもし今回のような事を無くす手段とすれば、やはりグッドリフトの進化が妥当では、という意見である。

今回無理矢理重量を 182.5kg に修正しようとした過程で「ロットナンバーが若いためこの重量に変更出来ません」と言った内容でポップアップが出るように改良を加えれば、例えば経験値の無いスタッフでも気付く事が出来たのではないかな。

因みに地区大会でも同様の件は発生している。

是非今回の経験を次回に活かせる事を願っている。

話が逸れた。

続いて義田選手。この重量を決めれば暫定 4 位だが失敗すれば 8 位という大事な試技。

しかしこの重量を決めきれず 180kg という記録ながらも 8 位となる。前年度は記録 180kg は 5 位になれる重量なのだが、今年に限ってはこの辺り重量の層が厚くなっているのが如実に出た。

最後に武田選手。

暫定 4 位の重量ではなく、3 位狙いの 192.5kg にトライ。バーは第 2 試技同様凄まじい速さで真ん中まで挙がるもそこから失速。惜しいところで失敗に終わる。

昨年度は肘の故障でジャパンクラシックは不参加であったが、全盛期の重量まであと一息というところまで復調していることが確認出来た。

また、ダブルエントリーしているマスターズ 1 では 1 位になっており、世界大会の代表権を確保している。

世界大会では完全復活した状態で自己ベストを出してほしい。

結果として、吉川選手 4 位、武田選手 5 位、梁本選手 6 位、松永選手 7 位、義田選手 8 位、と言う形でフィニッシュ。

一般男子 105kg 級 (レポーター 藤田)

トップ 4 名が 215 ~ 220kg まで仕上げており、1 つの取りこぼしがメダル圏外へ誘うシリアスな展開となった。

まずはトップ層の第 1 試技

金井選手 : 210kg

葛西選手 : 210kg

山下選手 : 200kg

伊藤選手 : 210kg

後藤選手 : 200kg

各選手第 1 試技をきっちり決める。

特筆する点は 2 点

金井選手の第一試技 210kg は過去最重量だ。これは今回は優勝が期待出来そうだ。

そして伊藤選手の第 1 試技も昨年度の 202.5kg スタートより 7.5kg も重い 210kg。こちらはやや重そうな印象だ。

勝負の第2試技

金井選手 : 215kg
葛西選手 : 215kg
山下選手 : 212.5kg
伊藤選手 : 215kg
後藤選手 : 210kg

各選手攻めた重量選択だ。

この時点で簡単に決めてくる選手はいなくなってしまった。

まずは金井選手。

金井選手にとって第2試技は非常に重要である、と筆者が勝手に考えている。

というのも、2016年高知のジャパンクラシック以来第2試技を落として、他選手に被せられてしまう傾向がある。

今回の210kgの軽さからみて215kgなら充分決まる重量であるが、例年これが決まらない。

今回はどうか。

215kgはスタートの合図と同時にゆっくり胸に着地する。ここまでは第1試技同様に金井選手のペースだ。

プレス後バーはゆっくり挙がりながらも差し切る。これは成功試技か、と思いきや白1本。

副審から赤をもらっている。これは心配な展開となってきた。

葛西選手は215kgをフィニッシュだけやや重そうながらも白2本で決める。

2018年11月の大阪大会で220kgをマークしているため、まだフルパワーを出し切っていないと考えられる。

山下選手の212.5kg、これも重そうだ。

しかしきっちり差し切り白2本で第3試技に望みを繋げる。

伊藤選手はやはり第1試技の210kgが重かったか第2試技の215kgは落としてしまう。

後藤選手はあと一息のところまで210kg失敗。第3試技になんとか修正できるか。

第2試技終了時点で215kgが唯一決まっている葛西選手が単独トップ。

しかしここからの展開が会場を沸かせた。

運命の第3試技

金井選手 : 215kg
葛西選手 : 217.5kg
山下選手 : 215kg
伊藤選手 : 217.5kg
後藤選手 : 210kg

ここからは試技順で記載する。

まず、第2試技終了時点で入賞圏外と思われていたTXP阿久津選手・堀口選手が仕掛ける。

まずは阿久津選手が4位狙いの200kgに挑戦。昨年まで190kg迄であった記録を192.5kgを第2試技で自己記録を軽く決め、大台に乗る重量を攻めてきた。

200kgは半分と少し挙げたところで失速。惜しい試技だった。

堀口選手が第2試技の190kgから22.5kgアップの212.5kgを挑戦。

流石にこの重量は難しいだろうとギャラリーはもれなく思ったはず。しかし212.5kgは190kgと同様スムーズに胸まで降りていく。

通常重過ぎる重量をやってみればわかるが、挙がる挙がらない以前にコントロールが効かなくなるはず。

これは挙がるか、と期待させつつも少し浮いたところで失敗。

両選手失敗はしたが勝負処が分かっている素晴らしい試技であった。

後藤選手の 210kg はプレスからラックまで 8 秒かかるほどの脅威の粘りでこれを差し切る。

しかし残念ながら赤判定。記録は第 1 試技の 200kg となった。

残りは 4 人。各選手の成功有無で 1 位が決まる。

まずは山下選手の 215kg。通常であれば 212.5kg の挙がりをみれば難しいだろう。

しかしこの重量を第 2 試技以上にスムーズに決める。

さすが山下選手「ワザ」を持っている。ギリギリ白を貰える範囲で第 2 試技と異なった「ワザ」を使ってここをしっかりと決めてきた。

どのような技術で決めたかは、2018 年 11 月からオープンした“8suki gym”にて本人に確認してほしい。

そして 215kg リトライの金井選手。

例年であれば第 2 試技で落としてしまった重量を第 3 試技で決めたことは無い。

しかし第 2 試技で赤が付きながらも差し切っている。この正念場で修正して決め返すことが出来るか。

バーはゆっくり胸に着く。ここまではいつものルーティン。

そこからの切り返しが凄かった。第 2 試技よりスムーズな挙がりをみせてしっかり差し切る。

結果は白 2 本成功。軽量がわずか 100.1kg。文句無しの体重差で暫定トップになった。

(因みにこれでも金井選手は毎回 90kg 台で大会出場しているため、検量 100kg 台は多い方)

試技は残り 2 人。

まずは 217.5kg を葛西選手が挑む。

しかしリブレイスがかかり、何とかスタートがかかるも失敗に終わってしまった。

実力が出し切れない形で、ギャラリーとしても悔しい結果だ。

自身の SNS で大会後負けてしまったことの悔しさを葛西選手は綴っていた。

この勝ちたいと思う精神が 50 歳手前でもトップで戦い続けられる要因の一つなのであろう。

若い選手は見習っていただきたい部分である。

最後に伊藤選手。

伊藤選手は 2018 年フィンランドで行われた世界大会で第 3 試技に M2 世界記録となる 220kg に挑戦したほど重量を持っている。

ここは 215kg を飛ばして 217.5kg を決め返してくるか。

しかし第 2 試技と同様途中まで挙がるも左側が遅れてバーが傾き失敗に終わる。

失敗はしたが今年 53 歳となる伊藤選手。全盛期バリバリの一般選手と遜色無い重量でトップ争いが出来る記録を継続しているのは素晴らしい。

また M2 の世界大会の代表権は確保しているため、昨年に引き続き優勝を狙って調整していただきたい。

結果として、1 位金井選手、2 位山下選手、3 位葛西選手、4 位伊藤選手という形でフィニッシュ。

金井選手は 2013 年以來の優勝となった。

これまで 1 位になれそうでなれないことが続いていたため、筆者としても今回の金井選手優勝は感慨深いものであった。

105kg級 (レポーター 物江)

このクラスでも私は主審を勤めさせていただいた。

エントリーを見ると、伊藤智選手 (K's GYM)、後藤衆治選手 (瀬野川 TC)、葛西昌彦選手 (K's GYM)、山下保樹選手 (8suki gym) という世界 BP 大会定連組と、JCBP 大会定連でノーギア BP 日本有数の強豪金井誠基選手 (プレススタ) という豪華な顔ぶれ、接戦が期待され、その通り最終試技者の判定結果まで順位が確定しない熱戦が展開された。

第一試技は山下さん、後藤さんが 200kg、葛西さん、金井さん、伊藤さんが 210kg を順調に成功、第二試技から試合が動き始めた。

第二試技後藤さんは 210kg を押し切れず、山下さんは 212.5kg に成功。葛西さん 215kg に成功、金井さん同重量を押し切り、主審の私

は白判定であったが、副審お二人佐野さんが2、石川さんが3の理由で赤判定を示し失敗。伊藤さんも同重量左が押し切れず、失敗。第二試技終了時点で、首位葛西さん、2位山下さん、3位金井さんという暫定順位であった。

第三試技、山下さんが体重差逆転を図り215kgに挑む。同重量を最後まで押し切ったが、主審の私から見ると、「スタート！」コールに対してややフライング気味であったので、赤を付けたが、副審お二人は白判定で成功試技となった。続いて、上述5名の中で最軽量の金井さんが同重量に挑む。プレス途中で左がやや傾いたが最後まで押し切り、白2:赤(佐野さん)1で成功、残り二人を残して暫定トップに立った。

葛西さんは217.5kgを申請、ベンチに横たわり慎重にフォームを組み、残り14秒でバーベルをラックUPしたが、副審お二人の手が下がらない。主審が残り9秒で「リプレース！」コールかけ、試技再開。葛西さんは押せずに失敗(このレポートを書く際に正確を期すために大会ビデオをチェックしたところ、残り00秒になった0.2秒後位に「プレス！」コールがかかっており、挙げ切ったとしてもタイムオーバーの失敗試技であった)。

大トリで、伊藤さんが逆転優勝をかけ、217.5kgに挑むも、最後まで押し切れず失敗、栄冠は金井さんに輝いた。

金井さんは、JCBP大会はあまり相性が良くなく、ここ数年満足な結果を残せなかったが、今回、100.10kgの検量で、例年よりも2kg程度重い体重であった。主任検量官であった私から見ると例年よりも頬がゆったりとしており、余裕がうかがえた。やはり重量級でも体重は重いほど、試技に有利に働くという事であろうか！

最終結果は優勝金井さん、2位山下さん、3位葛西さん、4位伊藤さん、5位後藤さんという順位であった。

一般男子 120kg 級 (レポーター 藤田)

この階級は優勝争いを大いに盛り上げる地区大会で230kgを決める井上選手、前年度優勝者TXP 武田選手が欠場している。特に井上選手は240kgを狙っていた噂もあるほど。とても残念な事。しかしその2人がいなくても優勝争いはレベル・白熱ぶり共に文句ない戦いとなった。

まずはトップ層の第1試技

小原選手 : 215kg
和田選手 : 215kg
古賀選手 : 210kg
淵野選手 : 200kg

120kg級までくると当たり前のように第1試技から200kgを超えてくる。

特に小原選手、和田選手は軽い。アップ場で済ませれば良かったのでは、と思うほどだ。

続いて第2試技

小原選手 : 225kg
和田選手 : 222.5kg
古賀選手 : 220kg
淵野選手 : 210kg

小原選手は自己ベストタイの重量。

慎重にバーを降ろし、キッチリ押し上げる。

問題の無い挙がりだ。

それもそのはず。小原選手は練習で220kg5レップを決めている選手だ。

回数が異常に強い選手。一発に活



きていないところが伸び代の多さを物語る若獅子だ。

和田選手についてはまだ恐ろしい程軽い。

一応これで M2 の日本記録更新なのだがそれを感じさせない。

この重量が最終アップでも良いのでは？

持ち記録 227.5kg の実力は間違いない。

隣で一緒に観戦していた兄玉氏から「今日は 230kg 以上の和田さんが観れるかもしれない」とのコメント。

間違い無く絶好調の状態できている。

2018 年 9 月のアジア大会でアジア記録の差し合いをして 226kg の持ち記録の古賀選手はどうか。

今回の 220kg はかなり重そうだ。右に傾きながらもなんとか成功させる。

第 3 試技で何位狙いで重量選択をするのか。

淵野選手の 210kg もやや重そうだが白 3 本で決める。

第 3 試技はプラス 2.5kg の 212.5kg と堅実な重量選択だ。

運命の第 3 試技

小原選手 : 236kg → 230kg → 231.5kg

和田選手 : 235kg → 232.5kg → 232kg

古賀選手 : 228kg → 225kg

淵野選手 : 212.5kg

トップ 3 選手が一般男子の日本記録を申請。

今までジャパンクラシックで 3 人同時に一般男子の日本記録を申請するほど白熱した大会はあったであろうか。

500 人超えのエントリーを締めくくるに相応しい戦いである (※)

※大会スケジュール上 120kg 超級の後に 120kg 級が行われた。



ここからは試技重量順に記載する。

まずは淵野選手の 212.5kg。

第 2 試技でやや重そうな挙がりだったため決めきれぬか、という見方だったが第 3 試技の方が軽い。
地区大会で 210kg を 3 試技目でマークしていた持ち記録であったがまだまだ底が見えない選手である。

続いて古賀選手。

228kg を申請していたが、暫定トップを狙うために 225kg に変更。

実績的には決めていた重量だったが、今回はプレスから少し浮いたところで撃沈。

実は大会前に怪我をしており、まともに練習出来ない状態で今大会に出場したとのこと。

次回もうワンランク上の重量で日本記録争いをしてほしい。

続いて和田選手、というところで重量変更がかかる。

ここはマッスルプロダクション藤田ひろゆきさんのセコンド能力が光る。

重量表示が度々変更しつつ結果的に小原選手が 231.5kg にトライ。

決まれば文句無しに日本記録。筆者は大会前に 235kg の試技動画を見せてもらっている。

決まるに決まっている。そう信じて試技を見守る。

スタート共にゆっくりバーが胸に付く、そしてプレス後少しバーが浮いたところで止まる。

残念赤 3 本。

そして大トリに和田選手の 232kg。

決まれば優勝。222.5kg までは軽過ぎて全く底が見えない。

227.5kg の日本記録を 4.5kg 上回る 232kg の日本記録の試技が始まる。

プレス後、バーは勢いよく伸びていき決まる、というところで止まってしまう。

後一歩というところで失敗に終わる。

この時点で小原選手の優勝が決まる。

筆者は小原選手を 2016 年東京のジャパクラシックで各選手の近況を調査している時点で目をつけだした。

その時は 175kg を凄まじい回数でやっていて、これは素晴らしい若手が出てきた、と。

これは 200kg オーバー確実！と見せかけて必殺の失格。

そして昨年栃木のジャパクラシックは 210kg 失敗して記録 200kg で 4 位。

メキメキ力を付けてきて今に至る。

これまでの成長を見守ってきた手前、所属も階級も何も共通が無い立場の筆者だが、小原選手の優勝が一番嬉しかった出来事だ。

因みに小原選手より、第 3 試技の失敗は降ろしの時点で真っ直ぐ降ろすか、斜めに降ろすか迷ってしまい結果真っ直ぐ降ろした後に中途半端に斜めに降ろしてしまった、と振り返る。

そしてマッスルのセコンド藤田ひろゆきさんは「和田選手のギリギリ挙がらない重量を見極めて 232kg を選択させた」とのこと。

結果から見れば本当に僅か数センチのところ落としたあたり、ライバルの試技をよく見極めた結果と言える。

一方和田選手。

今大会で 230kg 以上を挙げる実力があることを確認出来た。

これは世界大会で M2 の 120kg 級で

- ・ 優勝
- ・ 世界記録
- ・ M2 ベストリフター

の全てが手に入る可能性があるレベルにいる。

是非世界大会まで調子を維持して成田で存分に力を発揮してほしい。

結果として、1位小原選手、2位和田選手、3位古賀選手、4位淵野選手という形でフィニッシュ。

一般男子 120kg 超級 (レポーター 藤田)

この階級は絶対王者永田選手がどこまで自身が持つ日本記録を伸ばすかというところが見どころ。

第1試技に225kgを決めた時点で、2位の記録に25kgを差をつける圧倒的なレベル。

続いて第2試技に245kg。日本記録を2.5kg上回る重量だ。

245kgは25kgプレート8枚、10kgプレート2枚に2.5kgカラー2つで出来上がる重量。

あまりの想定外の重量のため、今回は上記の付け方ではなく25kgプレート6枚、20kgプレート2枚、15kgプレート2枚に2.5kgカラー2つで試技が始まる。

もし自分が同じ立場だったら日本記録を0.5kg上回る243kgを選択するところだが、永田選手の男らしさを感じる。

しかし245kgはプレス後6,7割程度浮いたところで左に傾き失敗。

第3試技も同様の挙がりで失敗に終わってしまう。



このレベルの重量は日本人では誰も辿り着いていない重量である。

練習メニューもただ筆者のようにひたすら高重量で続けていたらすぐに怪我をしてしまう。

豪快な試技の裏に正確な自己管理が必要な重量である。

世界大会では今回失敗に終わった重量を是非成功させてメダル争いをしてほしい。



第19回ジャパンクラシックベンチ選手権大会 女子結果

2019年1月19日

43kg級 47kg級

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
和田 桃子	43	42.50	42.5	-45	-45	42.5	61.21	2000	大阪府 個人	JR	1		
熊原 もも花	43	-	-	-	-	欠場	-	1997	岡山県 個人	JR	欠場		
小林 ナオコ	47	45.50	90	-96	96	96	132.12	1970	神奈川県 湘南BP	一般	1		
宮崎 優花	47	46.75	60	67.5	70	70	94.50	1998	北海道 BURST LIMIT	一般	2	JR	1
西村 政子	47	44.70	62.5	65	-67.5	65	90.55	1974	滋賀県 LIKE SIDE POWER	一般	3	M1	2
井出 悠梨恵	47	44.60	60	-65	-65	60	83.72	1992	静岡県 個人	一般	4		
川上 菜佑	47	45.05	55	57.5	60	60	83.14	1995	東京都 個人	一般	5		
小林 菜々子	47	45.05	52.5	57.5	-62.5	57.5	79.68	1991	福井県 タケイパワージム	一般	6		
大平 亜希	47	46.50	55	57.5	-60	57.5	77.93	1969	茨城県 パワーハルクジム	一般	7	M2	4
鈴木 綾子	47	43.00	70	-72.5	72.5	72.5	103.64	1972	愛知県 MBC POWER	M1	1		
中田 佳見	47	46.00	60	62.5	-67.5	62.5	85.36	1971	岡山県 岩崎BC津山	M1	3		
波名城ひとみ	47	45.85	55	57.5	-60	57.5	78.71	1970	東京都 パワーハウス	M1	4		
宮本 智子	47	46.25	75	80	83	83	112.92	1967	石川県 スポーツクラブ・ヴァイテン	M2	1		
餘語 てるみ	47	46.45	60	62.5	-67.5	62.5	84.77	1969	兵庫県 マッスルプロダクション神戸板宿	M2	2		
柴田 昌美	47	46.40	55	57.5	-60	57.5	78.05	1965	埼玉県 ストロングライン	M2	3		
門岡 麻美	47	46.00	47.5	52.5	-57.5	52.5	71.70	1967	高知県 元気クラブ	M2	5		
小島 良美	47	45.50	-50	50	-52.5	50	68.81	1963	東京都 個人	M2	6		
瀬戸 直美	47	45.85	30	-35	-37.5	30	41.07	1956	愛知県 チームみそカツ	M3	1		
菊入 広子	47	46.65	47.5	-50	50	50	67.61	1949	東京都 パワーハウス	M4	1		

52kg級

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
伊賀 梓	52	50.75	80	85	-100.5	85	107.96	1985	岡山県 チーム岡山	一般	1		
藤原 のどか	52	51.35	75	-80	80	80	100.70	1992	兵庫県 明石ベンチプレス同好会	一般	2		
菊池 雅	52	51.45	72.5	77.5	80	80	100.55	1998	東京都 TXP	一般	3	JR	1
西川 亜紀子	52	51.45	-72.5	72.5	-75	72.5	91.13	1976	兵庫県 チーム鉄腕	一般	4	M1	2
堀友 貴子	52	51.85	-70	-70	70	70	88.98	1988	愛知県 Power Line	一般	5		
鈴木 有佳	52	50.45	62.5	65	67.5	67.5	86.12	1969	福井県 個人	一般	6		
堀切 俊枝	52	50.70	52.5	55	57.5	57.5	73.09	1967	東京都 SPINE HOUSE	一般	7	M2	3
高荷 祐美	52	-	-	-	-	欠場	-	1984	埼玉県 ビックタートル深谷	一般	欠場		
渡辺 心愛	52	48.10	45	-52.5	-52.5	45	59.51	2004	岐阜県 THE STRONGEST WARRIORS	SJR	1		
宇都宮 真由	52	49.10	-60	60	-62.5	60	78.14	1998	宮崎県 トレーニングジムフリーウエイト	JR	2		
横溝 千尋	52	50.25	55	-62.5	-65	55	70.39	1996	福岡県 BEAST GYM	JR	3		
古屋 典子	52	51.45	80	85	87.5	87.5	109.98	1971	神奈川県 横濱ベンチラバーズ	M1	1		
伊藤 由美子	52	51.60	55	57.5	60	60	75.25	1976	大阪府 K's GYM	M1	3		
長江 由美子	52	51.50	50	55	-60	55	69.08	1974	岡山県 個人	M1	4		
木場 恵美子	52	50.90	75	80	85.5	85.5	108.35	1962	神奈川県 湘南BP	M2	1		
張吉 博子	52	49.25	60	62.5	-65	62.5	81.21	1962	和歌山県 和歌山県パワーリフティング協会	M2	2		
藤崎 晴美	52	49.70	47.5	50	-52.5	50	64.52	1963	茨城県 水戸パワーリフティング協会	M2	4		
田坂 朋子	52	50.85	45	50	-55	50	63.41	1966	東京都 個人	M2	5		
石橋 愛子	52	48.85	55	60	62.5	62.5	81.71	1953	埼玉県 ストロングライン	M3	1		
大澤 幸子	52	48.55	45	47.5	-50	47.5	62.38	1956	埼玉県 ストロングライン	M3	2		
福田 鈴子	52	50.85	37.5	42.5	-45	42.5	53.90	1953	埼玉県 ストロングライン	M3	3		
島田 裕子	52	50.05	32.5	-37.5	-37.5	32.5	41.72	1957	滋賀県 個人	M3	4		
山ノ井 貞子	52	49.55	35	-40	40	40	51.74	1944	滋賀県 個人	M4	1		
栗原 初音	52	51.35	40	-42.5	-42.5	40	53.50	1945	埼玉県 越谷市民ブルートレーニングジム	M4	2		

57kg級

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
福島 未里	57	56.80	95	102.5	-106.5	102.5	119.27	1991	静岡県 F.T. GYM	一般	1		
富山 春香	57	54.70	92.5	95	-100	95	113.85	1990	宮崎県 トレーニングジムフリーウエイト	一般	2		
中野 葉	57	56.60	87.5	92.5	-97.5	92.5	107.93	1991	東京都 ノーリミッツ	一般	3		
植田 滋美	57	56.10	80	82.5	-85	82.5	96.93	1968	東京都 SPINE HOUSE	一般	4	M2	1
奥谷 由香	57	56.80	72.5	77.5	-80	77.5	90.18	1984	大阪府 K's GYM	一般	5		
川端 友巳	57	54.50	65	67.5	70	70	84.13	1979	和歌山県 ゼウスジム	一般	6	M1	2
深澤 歩	57	57.00	-60	62.5	67.5	67.5	78.33	1988	埼玉県 ビックタートル深谷	一般	7		
番 詩織	57	56.30	60	-65	-65	60	70.30	1991	愛知県 チームみそカツ	一般	8		
木村 彩音	57	55.40	55	62.5	-70	62.5	74.16	2000	千葉県 帝京平成大学千葉ベンチプレスサークル	JR	1		
大友 風海	57	55.65	40	-47.5	-47.5	40	47.30	1997	千葉県 帝京平成大学千葉ベンチプレスサークル	JR	2		
伊藤 千帆	57	56.65	85	90	-103	90	104.94	1974	大阪府 K's Gym	M1	1		
寺村 美香	57	53.80	65	67.5	70	70	84.99	1962	北海道 江別協会	M2	2		
武本 早恵	57	54.65	60	65	-67.5	65	77.96	1969	京都府 京都パワーリフティングクラブ	M2	3		
山崎 頼子	57	54.90	77.5	80	81	81	96.80	1959	高知県 個人	M3	1		
長尾 優子	57	55.65	55	57.5	-60	57.5	67.99	1950	埼玉県 ストロングライン	M3	2		
藤永 ひとみ	57	-	-	-	-	欠場	-	1956	富山県 MAT	M3	欠場		
伊川 玲子	57	53.85	45	47.5	50	50	60.66	1939	埼玉県 越谷市民ブルートレーニングジム	M4	1		
嶋岡 民栄	57	55.45	50	-52.5	-52.5	50	62.25	1946	大阪府 烈剛河内	M4	2		

63kg級

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
石橋 茜	63	57.10	97.5	105.5	-110	105.5	122.25	1993	神奈川県 K's GYM 横浜	一般	1		
山野 舞花	63	62.95	87.5	90	92.5	92.5	99.40	1996	兵庫県 パワーハウス赤穂	一般	2	JR	1
石田 みどり	63	59.00	82.5	-85	85	85	96.01	1963	長野県 サンプレイフィットネスセンター	一般	3	M2	1
岩井 知子	63	60.50	55	57.5	60	60	66.47	1975	東京都 SPINE HOUSE	一般	4	M1	3
菅谷 友美	63	62.25	55	60	62.5	62.5	67.74	1999	東京都 関東学連	JR	2		
種橋 久美	63	61.50	72.5	77.5	80	80	87.51	1971	神奈川県 湘南BP	M1	1		
篠原 千絵	63	60.40	62.5	67.5	-70	67.5	74.87	1970	埼玉県 ストロングライン	M1	2		
塚本 美紀	63	62.05	-50	50	52.5	52.5	57.04	1972	東京都 パワーハウス	M1	4		
工藤 智恵子	63	62.50	62.5	67.5	70	70	75.63	1967	兵庫県 マッスルプロダクション	M2	2		
柳沢 由紀子	63	57.45	50	55	-60	55	63.43	1967	神奈川県 K's GYM横浜	M2	3		
高垣 慶子	63	62.10	55	-67.5	-67.5	55	59.72	1962	兵庫県 グッドコンディション	M2	4		
星田 千鶴子	63	62.30	65	70	74.5	74.5	80.69	1953	新潟県 五泉フィットネスクラブ	M3	1		
林 久子	63	61.95	65	70	74	74	80.50	1957	兵庫県 雷神ファクトリー	M3	2		

72kg級

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
山下 彩	72	63.35	87.5	92.5	100	100	106.95	1986	大阪府 8suki gym	一般	1		
徳武 恵美	72	71.30	95	100	-103	100	98.24	1964	東京都 TXP	一般	2	M2	1
照屋 利恵	72	68.50	80	85	90	90	90.90	1975	沖縄県 POWERSPORT	一般	3	M1	1
櫻井 美幸	72	71.50	80	-85	-87.5	80	78.45	1969	茨城県 BIG GUNS	一般	4	M2	2
堀な つみ	72	70.95	50	55	-60	55	54.21	1996	神奈川県 個人	JR	1		
鷺頭 智子	72	64.40	70	75	-80	75	79.23	1978	千葉県 個人	M1	2		
鶴田 千恵	72	69.35	70	-75	-77.5	70	70.09	1973	宮城県 THE ZEN CLUB K&B GYM	M1	3		
中根 春美	72	64.10	67.5	72.5	75	75	79.50	1961	愛知県 ちからこぶ	M2	3		
岡田 美佐	72	63.25	65	70	-75	70	74.95	1968	大阪府 個人	M2	4		
野尻 かほる	72	65.90	67.5	-70	-70	67.5	70.10	1961	和歌山県 個人	M2	5		
白石 佳子	72	70.45	55	60	65	65	64.38	1968	大阪府 個人	M2	6		
中山 みどり	72	65.10	35	42.5	-45	42.5	44.54	1941	大阪府 シロクマパワージム	M4	1		

84kg級 84kg超級

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
田島 瞳	84	82.30	82.5	90	97.5	97.5	87.86	1982	埼玉県 BIG FIVE	一般	1		
林 美緒	84	75.25	70	78	82	82	77.79	2001	愛知県 岡崎城西高校	SJR	1		
澤 千代美	84	77.65	67.5	72.5	75	75	69.81	1949	東京都 パワーハウス	M4	1		
小松 麻実	84超	105.30	75	80	82.5	82.5	67.75	1969	高知県 有光自動車	一般	1	M2	1

最優秀選手賞

小林 ナオコ

優秀選手賞

一般

石橋 茜

サブジュニア

林 美緒

ジュニア

菊池 雅

マスターズ1

古屋 典子

マスターズ2

宮本 智子

マスターズ3

山崎 頼子

マスターズ4

澤 千代美

第19回ジャパンクラシックベンチ選手権大会 男子結果

2019年1月19日 20日

53kg級 59kg級

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
藤田 海斗	53	52.15	75	80	-85	80	78.27	2001	埼玉県 浦和学院高校パワーリフティング部	SJR	1		
平山 秋繁	53	53.00	75	80	-85	80	76.96	2001	神奈川県 厚木商業高校	SJR	2		
久米 亮平	59	58.65	157.5	162.5	167.5	167.5	145.89	1988	徳島県 S.O.L	一般	1		
森木 翼	59	58.05	150	160	165	165	145.11	1999	兵庫県 マッスルプロダクション	一般	2	JR	1
井上 卓	59	58.05	155	160	162.5	162.5	142.91	1985	埼玉県 個人	一般	3		
小笠原 泰司	59	56.35	155	160	-165	160	144.77	1972	愛知県 パワーライン	一般	4	M1	1
野田 俊彦	59	58.85	152.5	-157.5	157.5	157.5	136.75	1979	東京都 パワーハウス	一般	5	M1	2
藤田 雄次	59	57.15	150	155	-160	155	138.35	1984	埼玉県 ストロングライン	一般	6		
村上 孝志	59	58.70	145	155	-160	155	134.90	1984	福岡県 B.P.S	一般	7		
平柳 道彦	59	57.65	137.5	142.5	145	145	128.36	1993	静岡県 F.T. GYM	一般	8		
中田 和夫	59	58.55	135	142.5	-150	142.5	124.31	1967	大阪府 K's GYM	一般	9	M2	2
岩田 和也	59	58.75	125	-132.5	132.5	132.5	115.22	1992	岐阜県 THE STRONGEST WARRIORS	一般	10		
端山 裕也	59	57.40	120	125	130	130	115.56	1985	千葉県 個人	一般	11		
岩瀬 泰介	59	58.10	125	130	-132.5	130	114.23	1988	千葉県 帝京平成大学千葉ベンチプレスサークル	一般	12		
吉野 公二	59	58.45	122.5	-130	-130	122.5	107.04	1969	千葉県 FITBULL	一般	13	M2	7
溝尾 元洋	59	58.55	115	122.5	-130	122.5	106.87	1980	東京都 個人	一般	14		
小畑 宏仁	59	59.00	-122.5	122.5	-125	122.5	106.11	1979	和歌山県 和歌山県パワーリフティング協会	一般	15	M1	9
小笠原 兆志	59	56.75	110	115	120	120	107.84	1995	高知県 個人	一般	16		
平山 弘毅	59	58.45	100	-110	-110	100	87.38	1985	東京都 パワーハウス	一般	17		
芦刈 宣彦	59	-	-	-	-	欠場	-	1979	宮崎県 トレーニングジム フリーウエイト	一般	欠場	M1	欠場
渡邊 将慶	59	57.90	85	90	-95	90	79.34	2001	埼玉県 埼玉県立草加高等学校	SJR	1		
橋本 幹太	59	58.65	115	120	-125	120	104.52	1999	千葉県 帝京平成大学千葉ベンチプレスサークル	JR	2		
内田 隼平	59	58.10	107.5	112.5	-120	112.5	98.86	1996	東京都 個人	JR	3		
佐野 智亮	59	-	-	-	-	欠場	-	1997	静岡県 個人	JR	欠場		
堀越 政輝	59	-	-	-	-	欠場	-	1996	東京都 帝京平成大学東京ベンチプレスサークル	JR	欠場		
池田 尚也	59	58.80	130	140	-152.5	140	121.65	1970	三重県 個人	M1	3		
市川 満典	59	53.55	125	130	-140	130	123.75	1974	神奈川県 湘南BP	M1	4		
原田 高志	59	51.25	112.5	120	127.5	127.5	127.04	1979	北海道 BURST LIMIT	M1	5		
新井 秀典	59	56.65	115	122.5	127.5	127.5	114.77	1970	埼玉県 ビッグタートル深谷	M1	6		
松本 宗晴	59	58.60	110	120	127.5	127.5	111.14	1974	大阪府 TEAM RED VOLTAGE	M1	7		
池村 正樹	59	58.90	115	122.5	125	125	108.44	1974	三重県 個人	M1	8		
山村 敬幸	59	58.60	105	110	115	115	100.24	1975	宮城県 仙台市体育館パワーリフティングクラブ	M1	10		
加納 勉	59	58.65	90	-102.5	-102.5	90	78.39	1970	愛知県 個人	M1	11		
高田 勇二	59	58.05	135	142.5	147.5	147.5	129.72	1965	神奈川県 湘南BP	M2	1		
堀田 剛正	59	57.90	130	132.5	-135	132.5	116.81	1961	埼玉県 THE CHAMPIONS	M2	3		
坂上 忠雄	59	56.50	125	-130	130	130	117.33	1965	岐阜県 神岡パワーリフティングクラブ	M2	4		
佐々木 敏則	59	57.55	120	125	127.5	127.5	113.05	1967	岩手県 個人	M2	5		
水野 貴章	59	58.65	120	125	-127.5	125	108.87	1967	千葉県 ゴールドジム成田千葉	M2	6		
田中 祐一郎	59	58.75	117.5	120	-122.5	120	104.35	1967	三重県 個人	M2	8		
大野 隆	59	58.75	112.5	-120	120	120	104.35	1964	愛知県 チームみそカツ	M2	9		
東 博志	59	57.85	110	117.5	-120	117.5	103.67	1963	千葉県 個人	M2	10		
岡本 敬弘	59	57.20	110	112.5	-115	112.5	100.33	1969	長野県 サンプレイフィットネスセンター	M2	11		
外山 和彦	59	57.85	107.5	110	112.5	112.5	99.26	1961	神奈川県 湘南BP	M2	12		
椎木 智良	59	58.65	105	-112.5	112.5	112.5	97.99	1964	埼玉県 ストロングライン	M2	13		
亀田 司	59	58.70	110	-117.5	-120	110	95.73	1961	富山県 チーム度肝	M2	14		
花田 典久	59	58.50	100	-105	105	105	91.67	1969	千葉県 新日鐵住金君津ボディビル同好会	M2	15		
松本 哲	59	58.45	100	-112.5	-112.5	100	87.38	1968	東京都 パワーハウス	M2	16		
山岡 真也	59	57.65	80	85	-90	85	75.24	1968	高知県 ACTOR	M2	17		
吉田 好邦	59	-	-	-	-	欠場	-	1968	埼玉県 個人	M2	欠場		
卯津羅 光彦	59	-	-	-	-	欠場	-	1962	大阪府 個人	M2	欠場		
伊差川 浩之	59	58.15	112.5	-117.5	117.5	117.5	103.17	1953	沖縄県 POWERSPORT	M3	1		
藤本 卓也	59	57.95	107.5	110	-115	110	96.90	1958	神奈川県 横濱ベンチラバーズ	M3	2		
山本 太郎	59	58.90	100	-105	107.5	107.5	93.26	1950	大阪府 列剛河内	M3	3		
長澤 修一	59	58.00	95	100	102.5	102.5	90.22	1956	神奈川県 横濱ベンチラバーズ	M3	4		
川上 京司	59	56.85	95	100	-102.5	100	89.71	1950	東京都 個人	M3	5		
橋本 雅人	59	58.90	92.5	95	97.5	97.5	84.59	1957	兵庫県 ショウワ パワークラブ	M3	6		
佐野 博	59	57.00	90	95	-97.5	95	85.01	1950	神奈川県 横濱ベンチラバーズ	M3	7		
石渡 啓之	59	57.25	-115	-115	-115	失格	0.00	1959	東京都 パワーハウス	M3	8		
白川 猛士	59	57.20	110	-120.5	120.5	120.5	107.47	1948	香川県 個人	M4	1		
浜山 久雄	59	58.50	105	-110	-112.5	105	91.67	1947	愛知県 新日鐵住金名古屋	M4	2		
信野 守彦	59	54.85	-90	90	-100	90	83.63	1946	大阪府 個人	M4	3		
竹井 保満	59	57.40	55	60	-62.5	60	53.33	1928	大阪府 烈剛河内	M4	4		

66kg級 一般 SJR JR M1 M2

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
齊藤 敬太	66	65.95	167.5	175	182.5	182.5	143.39	1982	北海道 BURST LIMIT	一般	1		
福田 将志	66	66.00	162.5	170	-177.5	170	133.48	1984	埼玉県 ストロングライン	一般	2		
山村 喜代将	66	65.45	165	-170	-170	165	130.46	1991	愛媛県 チーム愛媛	一般	3		
高橋 勇二	66	65.60	165	-172.5	-172.5	165	130.21	1983	千葉県 帝京平成大学千葉ベンチプレスサークル	一般	4		
土田 真臣	66	64.40	162.5	-170	-175	162.5	130.23	1996	大阪府 K's GYM	一般	5	JR	1
木村 琢磨	66	65.70	155	160	-162.5	160	126.10	1984	東京都 個人	一般	6		
浅井 嵩文	66	65.60	140	150	152.5	152.5	120.34	1987	長野県 Body Art Design	一般	7		
古賀 翔太	66	62.80	145	150	-155	150	122.84	1990	東京都 個人	一般	8		
石田 宜央	66	65.65	147.5	-152.5	-152.5	147.5	116.33	1980	東京都 大谷塾	一般	9		
大場 隆俊	66	65.30	145	-150	-150	145	114.86	1973	岐阜県 THE STRONGEST WARRIORS	一般	10		
森 誠二	66	65.55	130	140	-142.5	140	110.55	1980	山形県 個人	一般	11		
徳丸 優	66	65.85	120	125	132.5	132.5	104.23	1983	北海道 BURST LIMIT	一般	12		
川上 薫寛	66	65.05	117.5	122.5	125	125	99.34	1993	愛知県 チームみそカツ	一般	13		
佐藤 駿之介	66	63.60	110	120	-125	120	97.20	1994	長野県 B.A.D.	一般	14		
藤井 宏介	66	65.50	120	-125	-127.5	120	94.82	1985	愛知県 BTC	一般	15		
亀谷 充男	66	65.50	-157.5	-157.5	-157.5	失格	0.00	1971	広島県 瀬野川トレーニングクラブ	一般	失格	M1	失格
鈴木 康太	66	65.35	-142.5	-142.5	-142.5	失格	0.00	1982	埼玉県 THE CHAMPIONS	一般	失格		
本堂 正達	66	65.40	-180	-180	-180	失格	0.00	1995	福井県 個人	一般	失格		
宮田 匡人	66	-	-	-	-	欠場	-	1981	兵庫県 フジモトジム	一般	欠場		
石渡 汰成	66	65.25	95	100	-110	100	79.27	2001	神奈川県 平塚湘風高等学校	SJR	1		
牛山 恭太	66	65.70	140	145	-150	145	114.28	1997	北海道 ハイテク	JR	2		
宮本 佳樹	66	65.90	135	142.5	-147.5	142.5	112.03	1999	大阪府 個人	JR	3		
三井 靖也	66	65.50	125	-135	135	135	106.67	1996	千葉県 関東学連・国際武道大学	JR	4		
鈴木 武虎	66	65.80	127.5	-135	135	135	106.27	1999	埼玉県 ストロングライン	JR	5		
菱沼 駿	66	64.95	117.5	125	-130	125	99.46	1997	宮城県 仙台市体育館パワーリフティングクラブ	JR	6		
松浦 一樹	66	65.60	122.5	-130	-130	122.5	96.67	1998	千葉県 帝京平成大学千葉ベンチプレスサークル	JR	7		
名城 幸也	66	66.00	110	115	-117.5	115	90.30	1996	高知県 ACTOR	JR	8		
和田 幸大	66	65.35	110	-115	-115	110	87.08	2000	埼玉県 ストロングライン	JR	9		
川瀬 将之	66	65.65	110	-115	-127.5	110	86.75	1997	大阪府 8suki gym	JR	10		
榎本 彪真	66	64.40	100	-110	-110	100	80.14	2000	山口県 個人	JR	11		
富岡 航	66	-	-	-	-	欠場	-	1997	北海道 ハイテク	JR	欠場		
澤木 勇佑	66	-	-	-	-	欠場	-	1998	北海道 ハイテク	JR	欠場		
仲真 良人	66	64.45	155	-160	-160	155	124.14	1973	沖縄県 個人	M1	1		
兼上 頼正	66	65.15	155	-160	-160	155	123.02	1972	東京都 Team Ponze	M1	2		
小竹 謙司	66	65.85	140	150	-152.5	150	118.00	1977	富山県 MAT	M1	3		
深河 正	66	65.00	140	145	-147.5	145	115.30	1972	兵庫県 マッスルプロダクション	M1	4		
伊東 寛之	66	65.55	142.5	-152.5	-152.5	142.5	112.52	1973	兵庫県 マッスルプロダクション	M1	5		
菅野 達也	66	65.00	130	140	-142.5	140	111.33	1973	宮城県 仙台市体育館PC	M1	6		
湯山 聡	66	65.25	130	140	-147.5	140	110.97	1977	愛媛県 チーム愛媛	M1	7		
渡辺 匡宏	66	65.70	130	137.5	-142.5	137.5	108.37	1977	岐阜県 THE STRONGEST WARRIORS	M1	8		
伊藤 勉	66	65.50	125	130	-132.5	130	102.72	1977	福岡県 B.P.S	M1	9		
西村 卓	66	65.55	122.5	127.5	130	130	102.65	1971	愛知県 チームみそカツ	M1	10		
柘植 信人	66	65.10	120	125	-132.5	125	99.27	1974	岐阜県 神岡パワーリフティングクラブ	M1	11		
中島 一彰	66	64.15	115	120	-125	120	96.49	1976	三重県 個人	M1	12		
木村 淳	66	65.40	110	120	-125	120	94.94	1971	福岡県 トレーニングスタジオコア	M1	13		
河村 大三郎	66	65.00	110	112.5	-115	112.5	89.46	1972	三重県 個人	M1	14		
森永 健	66	65.50	100	107.5	-112.5	107.5	84.94	1975	福井県 タケイパワージム	M1	15		
森下 哲哉	66	65.45	100	-110	-120	100	79.06	1971	三重県 個人	M1	16		
藤川 慶二	66	65.85	100	-105	-105	100	78.67	1971	大阪府 バリバリジム	M1	17		
カルロス福田	66	-	-	-	-	欠場	-	1972	東京都 Team Ponz	M1	欠場		
那須 野武文	66	-	-	-	-	欠場	-	1973	埼玉県 個人	M1	欠場		
仲間 勇人	66	65.60	135	140	-145	140	110.48	1968	沖縄県 TEAM GUTEI	M2	1		
中山 久幸	66	63.50	125	135	-145	135	109.50	1963	東京都 ノーリミッツ	M2	2		
九野 毅	66	65.65	130	132.5	-135	132.5	104.50	1968	岐阜県 PEACE GYM	M2	3		
長瀬 祐司	66	65.15	130	-135	-135	130	103.18	1964	岐阜県 個人	M2	4		
川浦 幸次	66	65.50	117.5	-125	125	125	98.77	1964	大阪府 WTC藤井寺	M2	5		
池上 範雄	66	65.90	120	125	-127.5	125	98.27	1963	兵庫県 兵庫県パワーリフティング個人選手会	M2	6		
池上 健	66	64.45	112.5	115	-120	115	92.10	1961	長野県 サンプルイフィットネスセンター	M2	7		
市原 真史	66	64.80	100	110	-115	110	87.70	1966	大阪府 k's GYM	M2	8		
畦間 義則	66	64.40	-105	-105	105	105	84.15	1969	東京都 個人	M2	9		
成澤 真一	66	64.60	-122.5	-122.5	-122.5	失格	0.00	1965	東京都 個人	M2	失格		

66kg級 M3 M4

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
吉留 慎一	66	64.00	-130	130	137.5	137.5	110.78	1957	愛知県 個人	M3	1		
外山 尚人	66	65.15	135	-137.5	137.5	137.5	109.13	1959	神奈川県 湘南BP	M3	2		
辻 安彦	66	64.50	-130	130	135	135	108.05	1957	兵庫県 マッスルプロダクション	M3	3		
大村 茂則	66	65.35	125	130	135	135	106.87	1959	大阪府 個人	M3	4		
佐藤 恵二	66	65.90	132.5	-137.5	-137.5	132.5	104.17	1952	京都府 京都パワーリフティングクラブ	M3	5		
三木 浩史	66	64.00	120	125	-132.5	125	100.71	1957	兵庫県 フジモトジム	M3	6		
鈴木 光	66	64.50	120	125	-130	125	100.05	1959	東京都 個人	M3	7		
李 炳八	66	65.25	110	115	120	120	95.12	1958	茨城県 水戸パワーリフティング協会	M3	8		
鳥丸 登	66	63.15	100	102.5	-105	102.5	83.53	1953	東京都 個人	M3	9		
井波 栄治	66	65.85	90	95	102.5	102.5	80.63	1951	北海道 BURST LIMIT	M3	10		
関根 隆信	66	-	-	-	-	欠場	-	1955	埼玉県 ストロングライン	M3	欠場		
保富 泰人	66	64.95	100	107.5	-112.5	107.5	85.54	1949	和歌山県 和歌山県パワーリフティング協会	M4	1		
新田 幸治	66	64.05	100	-105	105	105	84.54	1947	大阪府 WTC 藤井寺	M4	2		
宇谷 正紀	66	63.10	95	100	102.5	102.5	83.59	1948	兵庫県 フジモトアキオジム	M4	3		
小山 義雄	66	65.25	70	75	-77.5	75	59.45	1937	埼玉県 越谷市民プールトレーニングジム	M4	4		
餅野 法善	66	65.05	-45	45	-50	45	35.76	1941	大阪府 スマイルクラブ	M4	5		
佃 忠和	66	63.90	-102.5	-102.5	-102.5	失格	0.00	1944	神奈川県 横浜ベンチラバーズ	M4	失格		

74kg級 一般 JR

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
児玉 大紀	74	71.95	187.5	195	-210	195	143.15	1979	大阪府 K's GYM	一般	1	M1	1
臼木 翔吾	74	72.50	175	182.5	-207.5	182.5	133.22	1992	兵庫県 マッスルプロダクション	一般	2		
染谷 成亮	74	73.35	170	180	-182.5	180	130.29	1985	栃木県 KING BULL	一般	3		
武井 風	74	67.50	160	-170	175	175	134.93	1992	福井県 タケイパワージム	一般	4		
京光 一平	74	73.50	170	175	-182.5	175	126.49	1981	兵庫県 フジモトジム	一般	5		
福田 忠浩	74	73.50	165	175	-182.5	175	126.49	1996	兵庫県 マッスルプロダクション	一般	6	JR	1
松本 健一郎	74	72.85	170	172.5	-177.5	172.5	125.48	1975	神奈川県 個人	一般	7	M1	2
石井 尚紀	74	70.15	165	170	-175	170	127.19	1995	長野県 B.A.D	一般	8		
古川 琢真	74	72.85	150	-167.5	167.5	167.5	121.85	1993	岐阜県 THE STRONGEST WARRIORS	一般	9		
川崎 勇斗	74	72.45	155	160	165	165	120.51	1988	愛媛県 チーム愛媛	一般	10		
酒井 ジュンヤ	74	72.40	155	160	-167.5	160	116.92	1970	大阪府 バリバリジム	一般	11	M1	5
村山 正晃	74	73.25	140	150	155	155	112.31	1987	東京都 個人	一般	12		
山下 恭平	74	72.95	140	147.5	-150	147.5	107.19	1993	愛知県 ゴールドジム名古屋金山	一般	13		
荃田 貴澄	74	72.35	135	142.5	-145	142.5	104.18	1993	東京都 パワーハウス	一般	14		
高橋 優太	74	73.55	127.5	135	142.5	142.5	102.95	1995	埼玉県 ストロングライン	一般	15		
松本 裕也	74	72.90	130	135	-140	135	98.16	1993	大阪府 K's GYM	一般	16		
二宮 拓也	74	73.40	130	135	-140	135	97.67	1988	高知県 ACTOR (アクター)	一般	17		
福嶋 勇二	74	72.40	130	-135	-135	130	94.99	1986	愛媛県 個人	一般	18		
福庭 健司	74	68.60	120	-127.5	127.5	127.5	97.05	1990	島根県 個人	一般	19		
横山 太朗	74	73.30	120	125	-132.5	125	90.53	1990	埼玉県 ストロングライン	一般	20		
榎宮 伸幸	74	73.35	120	125	-130	125	90.48	1990	千葉県 Team BULL	一般	21		
水上 雄亮	74	72.75	-120	120	122.5	122.5	89.20	1980	東京都 個人	一般	22		
若林 康平	74	73.05	-122.5	122.5	-127.5	122.5	88.93	1994	大阪府 関西大学S&Cクラブ	一般	23		
加藤 純介	74	73.95	-127.5	-127.5	-127.5	失格	0.00	1990	愛知県 個人	一般	失格		
野村 晃史	74	-	-	-	-	欠場	-	1979	埼玉県 ストロングライン	一般	欠場	M1	-
杉中 一輝	74	72.10	150	160	167.5	167.5	122.77	1999	三重県 桑名体育館TC	JR	2		
八巻 拓未	74	73.55	150	160	-170	160	115.59	1997	東京都 個人	JR	3		
岡本 悠	74	73.20	140	150	-155	150	108.74	1996	長野県 B.A.D.	JR	4		
田本 廉	74	71.90	135	-140	140	140	102.82	1998	神奈川県 K's GYM 横浜	JR	5		
籠瀬 怜威	74	67.55	130	-135	-135	130	100.17	1999	大阪府 K's GYM	JR	6		
重松 慧哉	74	71.60	125	130	-137.5	130	95.78	1998	福岡県 BEASTGYM	JR	7		
中西 雄哉	74	73.65	120	127.5	-135	127.5	92.02	1997	千葉県 帝京平成大学千葉ベンチプレスサークル	JR	8		
市村 慎吾	74	72.50	115	-120	120	120	87.60	1997	千葉県 帝京平成大学千葉ベンチプレスサークル	JR	9		
春田 秀匡	74	71.55	115	-122.5	-125	115	84.77	1997	滋賀県 Black ship	JR	10		

74kg級 M1 M2 M3 M4

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
守山 哲郎	74	73.25	167.5	-170	-170	167.5	121.37	1971	富山県 MAT	M1	3		
松山 聡	74	73.35	155	165	-170	165	119.44	1972	千葉県 TEAM I-CHIB-N	M1	4		
松尾 有一	74	72.40	145	155	157.5	157.5	115.09	1973	岐阜県 PEACE GYM	M1	6		
砂田 恭秀	74	72.45	145	150	-157.5	150	109.55	1977	愛知県 BTC	M1	7		
藤本 善一	74	73.85	150	-157.5	-157.5	150	108.05	1974	三重県 個人	M1	8		
渡辺 孝治郎	74	73.05	-140	-140	140	140	101.64	1972	愛知県 BTC	M1	9		
行本 幸生	74	73.15	127.5	132.5	135	135	97.91	1970	大阪府 個人	M1	10		
川崎 昌巳	74	73.10	125	130	-135	130	94.33	1977	岐阜県 PEACE GYM	M1	11		
加藤 隆之	74	73.20	125	130	-137.5	130	94.24	1971	大阪府 STC	M1	12		
山本 雄一郎	74	72.55	125	-132.5	-132.5	125	91.20	1977	大阪府 個人	M1	13		
内田 雅之	74	73.00	115	120	125	125	90.79	1975	北海道 苫小牧マッスルクラブ	M1	14		
小林 厚志	74	70.85	110	120	-125	120	89.11	1974	長野県 BAD	M1	15		
福留 健治	74	73.20	-120	120	-125	120	86.99	1972	香川県 個人	M1	16		
唐澤 仁	74	73.65	115	120	-122.5	120	86.61	1972	長野県 サンプルイットネスセンター	M1	17		
山崎 康博	74	72.90	-122.5	-122.5	-122.5	失格	0.00	1973	大阪府 STC	M1	失格		
松岡 紀佳	74	-	-	-	-	欠場	-	1971	神奈川県 K's GYM 横浜	M1	欠場		
安田 和臣	74	-	-	-	-	欠場	-	1976	千葉県 新日鐵住金君津ボテビル同好会	M1	欠場		
藤川 慎吾	74	72.45	160	170.5	172.5	172.5	125.99	1967	神奈川県 湘南BP	M2	1		
林 健一郎	74	72.30	145	150	152.5	152.5	111.55	1967	山口県 個人	M2	2		
井出 光弘	74	73.35	145	150	-152.5	150	108.58	1961	静岡県 F.T. GYM	M2	3		
倉光 明人	74	72.20	-145	145	-150	145	106.17	1961	福岡県 B.P.S	M2	4		
鶴田 一	74	73.80	-137.5	-140	142.5	142.5	102.70	1962	宮城県 THE ZEN CLUB K&B GYM	M2	5		
河野 儀久	74	72.25	130	-135	135	135	98.80	1968	岡山県 個人	M2	6		
根岸 宏昭	74	73.30	127.5	132.5	-135	132.5	95.96	1968	神奈川県 湘南BP	M2	7		
朝井 章生	74	73.55	125	132.5	-135	132.5	95.72	1968	長野県 サンプルイットネスセンター	M2	8		
二反田 豊和	74	72.15	-130	130	-135	130	95.24	1968	大阪府 STC	M2	9		
油井 弘光	74	73.30	120	125	130	130	94.15	1964	千葉県 クラブ ポイズン	M2	10		
田中 博文	74	70.55	-105	105	115	115	85.67	1962	大阪府 シロクマパワージム	M2	11		
幸田 有司	74	72.95	115	-117.5	-117.5	115	83.57	1968	東京都 FREE WEIGHT GYM	M2	12		
浦田 繁男	74	70.30	105	110	-115	110	82.16	1962	滋賀県 LAKE SIDE POWER	M2	13		
稲葉 俊幸	74	73.05	110	-115	-115	110	79.86	1961	埼玉県 個人	M2	14		
右川 浩正	74	70.60	102.5	-107.5	107.5	107.5	80.04	1969	兵庫県 マッスルプロダクション	M2	15		
林 英生	74	71.10	90	102.5	-105	102.5	75.91	1961	三重県 個人	M2	16		
碓 正一朗	74	72.25	-102.5	-102.5	102.5	102.5	75.01	1961	神奈川県 個人	M2	17		
尾崎 洋	74	72.90	-142.5	-142.5	-142.5	失格	0.00	1965	福岡県 B.P.S	M2	失格		
森田 俊介	74	-	-	-	-	欠場	-	1967	兵庫県 グッドコンディション	M2	欠場		
石渡 敬一郎	74	73.25	142.5	148.5	-150.5	148.5	107.60	1951	東京都 チトフナ パワークラブ	M3	1		
渡辺 進	74	73.30	140	145	-149	145	105.01	1953	新潟県 五泉フィットネスクラブ	M3	2		
川原 裕三	74	72.00	135	140	-149	140	102.72	1958	北海道 苫小牧マッスルクラブ	M3	3		
大谷 重司	74	73.45	135	140	-149	140	101.24	1957	東京都 パワーハウス	M3	4		
古田 晴彦	74	70.85	127.5	132.5	135	135	100.25	1959	大阪府 マグナムフィットネスセンター	M3	5		
平井 一雄	74	71.95	135	-140	-140	135	99.10	1957	神奈川県 湘南BP	M3	6		
井伊 満	74	72.60	120	125	-130	125	91.16	1958	兵庫県 フジモトジム	M3	7		
田中 光章	74	73.35	115	125	-132.5	125	90.48	1953	福岡県 B.P.S	M3	8		
大村 和久	74	71.60	115	120	122.5	122.5	90.25	1956	愛知県 トヨタ自動車(株)ボテビル部	M3	9		
下山 洋二	74	71.85	110	117.5	-122.5	117.5	86.34	1951	神奈川県 横濱ベンチラバーズ	M3	10		
勝又 秀夫	74	71.60	-90	90	95	95	69.99	1950	埼玉県 ストロングライン	M3	11		
鷹野 和美	74	72.20	80	85	-90	85	62.24	1957	大阪府 I. W. GG	M3	12		
林 靖弘	74	73.10	-140	-145	-149	失格	0.00	1956	石川県 マッスルプロダクション石川	M3	失格		
山本 茂樹	74	72.10	117.5	122.5	127.5	127.5	93.45	1943	埼玉県 ストロングライン	M4	1		
諸星 孝夫	74	72.90	105	110	-117.5	110	79.98	1945	神奈川県 湘南BP	M4	2		
三木 宣彦	74	72.70	90	-95	95	95	69.21	1939	東京都 チトフナ パワークラブ	M4	3		
藤田 俊夫	74	72.05	90	92.5	-95	92.5	67.83	1935	和歌山県 和歌山県パワーリフティング協会	M4	4		
照井 清	74	68.80	82.5	87.5	-90	87.5	66.45	1941	神奈川県 個人	M4	5		
市川 勞	74	-	-	-	-	欠場	-	1947	愛知県 個人	M4	欠場		

83kg級 一般 SJR JR M1

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
鈴木 佑輔	83	79.65	205	215	-227	215	147.19	1984	長野県 B.A.D.	一般	1		
大室 豪槻	83	79.60	192.5	202.5	205	205	140.40	1993	大阪府 K's GYM	一般	2		
福島 勇輝	83	81.60	192.5	-202.5	-205	192.5	129.81	1986	静岡県 F. T. GYM	一般	3		
窪田 公輝	83	82.45	175	182.5	187.5	187.5	125.65	1992	千葉県 個人	一般	4		
浦野 雄一	83	81.95	170	180	185	185	124.43	1987	埼玉県 ハマスポーツジム	一般	5		
三輪 景吾	83	82.70	185	-195	-195	185	123.75	1981	愛知県 東名アスレチック	一般	6		
高橋 真一郎	83	82.10	180	-187.5	-187.5	180	120.94	1979	千葉県 個人	一般	7	M1	4
菊地 洋介	83	82.15	170	180	-185	180	120.89	1995	神奈川県 K's GYM 横浜	一般	8		
山田 賢	83	82.40	155	162.5	170	170	113.97	1992	長野県 B.A.D.	一般	9		
林 克也	83	82.90	170	-175	-182.5	170	113.56	1987	大阪府 K's GYM	一般	10		
亀田 孝典	83	82.70	160	162.5	-170	162.5	108.70	1987	神奈川県 K's GYM 横浜	一般	11		
向井 幹	83	80.95	150	155	-160	155	105.04	1995	福岡県 BEAST GYM	一般	12		
矢野 太紀	83	82.05	145	152.5	-157.5	152.5	102.50	1989	高知県 元気クラブ	一般	13		
石崎 竜海	83	79.75	145	150	-160	150	102.61	1997	山口県 個人	一般	14	JR	5
村上 貴信	83	81.20	145	150	-152.5	150	101.46	1989	愛媛県 チーム愛媛	一般	15		
磯見 嘉一	83	81.15	140	147.5	-150	147.5	99.81	1973	埼玉県 個人	一般	16	M1	13
平井 優舟	83	81.35	140	145	147.5	147.5	99.66	1991	神奈川県 個人	一般	17		
光末 仁大	83	82.10	-170	-170	-170	失格	0.00	1972	宮崎県 個人	一般	失格	M1	-
丹羽 由起	83	82.40	-185	-185	-185	失格	0.00	1987	愛知県 個人	一般	失格		
鈴木 孝英	83	-	-	-	-	欠場	-	1981	福島県 ゴールドジムEXPRESS郡山	一般	欠場		
富田 慎之介	83	82.90	137.5	145	151	151	100.86	2001	埼玉県 浦和学院高校パワーリフティング部	SJR	1		
後藤 優誠	83	80.80	137.5	142.5	-151	142.5	96.68	2002	広島県 瀬野川トレーニングクラブ	SJR	2		
大堂 琉斗	83	81.10	112.5	120	127.5	127.5	86.31	2001	愛知県 個人	SJR	3		
西村 将汰	83	82.55	175	-180	180	180	120.54	1999	東京都 個人	JR	1		
岡野 太郎	83	82.65	170	-175	175	175	117.11	1997	東京都 東京農業大学	JR	2		
景井 勇斗	83	81.75	-165	-165	165	165	111.15	1995	千葉県 CLUB POISON	JR	3		
佐藤 亮太	83	80.90	152.5	160	-167.5	160	108.47	1996	東京都 ノーリミッツ	JR	4		
瀬谷 有希	83	82.00	130	-140	-140	130	87.41	1996	東京都 個人	JR	6		
古布 紘太郎	83	-	-	-	-	欠場	-	1997	兵庫県 マッスルプロダクション	JR	欠場		
佐久間 直哉	83	-	-	-	-	欠場	-	2000	埼玉県 ストロングライン	JR	欠場		
酒井 康行	83	82.80	177.5	-185	187.5	187.5	125.34	1973	兵庫県 フジモトジム	M1	1		
高取 征爾	83	82.75	182.5	-187.5	-187.5	182.5	122.04	1975	愛知県 ゴールドジム名古屋金山	M1	2		
清水 達也	83	82.10	170	180	-185	180	120.94	1971	愛知県 サン笠寺	M1	3		
安江 三千夫	83	82.20	180	-185	-185	180	120.85	1970	岐阜県 THE STRONGEST WARRIORS	M1	5		
久保田 淳	83	82.50	172.5	177.5	-180	177.5	118.91	1976	大阪府 個人	M1	6		
齋藤 大介	83	82.70	160	-165	-165	160	107.03	1970	神奈川県 TETSUBEYA	M1	7		
渡邊 勝也	83	82.75	150	155	160	160	106.99	1973	東京都 TXP	M1	8		
内堀 健太	83	81.95	152.5	-157.5	-157.5	152.5	102.57	1975	福岡県 個人	M1	9		
増山 雄一	83	82.45	140	-150	152.5	152.5	102.20	1972	山口県 個人	M1	10		
柚木 誠	83	81.60	150	-160	-160	150	101.15	1976	兵庫県 マッスルプロダクション	M1	11		
黒木 幸二	83	81.80	140	150	-155	150	101.00	1970	宮崎県 トレーニングジムフリーウエイト	M1	12		
尾嶋 裕	83	81.65	-140	145	-147.5	145	97.75	1973	東京都 個人	M1	14		
田村 寛	83	80.55	-140	140	-142.5	140	95.17	1969	埼玉県 個人	M1	15		
早川 剛史	83	82.60	130	135	137.5	137.5	92.05	1970	東京都 個人	M1	16		
鈴木 博達	83	82.75	130	137.5	-140	137.5	91.95	1974	東京都 パワーハウス	M1	17		
紺野 仁教	83	80.70	130	135	-140	135	91.66	1972	大阪府 STC	M1	18		
金光 忠実	83	82.40	125	135	-137.5	135	90.50	1975	東京都 個人	M1	19		
堀川 哲	83	81.10	125	127.5	130	130	88.00	1975	埼玉県 ストロングライン	M1	20		
福岡 一平	83	82.10	125	130	-135	130	87.34	1975	大阪府 8sukigym	M1	21		
塩谷 勝也	83	82.30	-130	130	-135	130	87.21	1974	大阪府 ゴールドジム梅田大阪	M1	22		
飯塚 隼弘	83	80.90	115	120	-127.5	120	81.35	1978	東京都 TXP	M1	23		
根本 裕徳	83	-	-	-	-	欠場	-	1971	埼玉県 ストロングライン	M1	欠場		

83kg級 M2 M3 M4

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
坂本 勝典	83	80.75	170	176	-182.5	176	119.46	1968	宮崎県 MPC	M2	1		
山下 卓也	83	81.55	150	160	165	165	111.31	1968	大阪府 K's GYM	M2	2		
秋本 博則	83	82.15	155	160	165	165	110.82	1969	広島県 個人	M2	3		
小島 勝信	83	82.40	160	-165	-165	160	107.26	1966	埼玉県 THE CHAMPIONS	M2	4		
飯干 信二	83	79.60	142.5	150	-155	150	102.73	1964	福岡県 B.P.S	M2	5		
伊藤 卓	83	80.55	145	-150	-150	145	98.57	1963	兵庫県 兵庫PL選手会	M2	6		
高橋 長治	83	80.85	140	145	-150	145	98.34	1961	千葉県 新日鐵住金君津ボデビル同好会	M2	7		
谷田 真	83	78.75	135	140	142.5	142.5	98.27	1962	埼玉県 ストロングライン	M2	8		
山根 淳	83	79.95	-142.5	142.5	-150	142.5	97.32	1965	神奈川県 リコーパワーリフティング部	M2	9		
赤司 正仁	83	81.70	140	-150	-150	140	94.34	1963	埼玉県 個人	M2	10		
小倉 正樹	83	81.90	135	140	-142.5	140	94.20	1966	埼玉県 ストロングライン	M2	11		
澤野 裕一	83	80.00	120	127.5	-132.5	127.5	87.04	1967	東京都 FREE WEIGHT GYM	M2	12		
小野 田学	83	80.95	-120	122.5	-130	122.5	83.02	1968	大阪府 個人	M2	13		
池田 栄治	83	81.45	-122.5	122.5	-130	122.5	82.70	1968	静岡県 個人	M2	14		
安江 宏昭	83	81.90	110	112.5	-115	112.5	75.70	1969	岐阜県 PEACE GYM	M2	15		
岡本 弘行	83	82.30	100	-107.5	107.5	107.5	72.12	1969	愛知県 個人	M2	16		
軽部 敏浩	83	-	-	-	-	欠場	-	1965	千葉県 港腕パワークラブ	M2	欠場		
猪須 純一	83	81.70	157.5	166	-170	166	111.86	1954	宮崎県 トレーニングジムフリーウエイト	M3	1		
飯島 修	83	81.40	145	147.5	-150	147.5	99.62	1954	東京都 大谷塾	M3	2		
信原 英之	83	79.15	140	145	-150	145	99.67	1952	兵庫県 パワーハウス赤穂	M3	3		
大谷 進	83	81.45	135	145	-150	145	97.89	1952	東京都 大谷塾	M3	4		
井上 謙一	83	79.90	-130	135	-142.5	135	92.24	1957	大阪府 個人	M3	5		
南正覚 雅士	83	77.60	130	-137.5	-137.5	130	90.51	1956	宮崎県 トレーニングジムフリーウエイト	M3	6		
伊藤 順三	83	78.00	122.5	-130	130	130	90.21	1954	兵庫県 個人	M3	7		
古川 満明	83	82.25	87.5	95	-100	95	63.76	1959	埼玉県 ストロングライン	M3	8		
今泉 春樹	83	81.50	130	136.5	140	140	94.48	1947	東京都 大谷塾	M4	1		
飯田 康士	83	81.75	130	136	-137	136	91.61	1943	兵庫県 マッスルプロダクション	M4	2		
藤本 章夫	83	79.45	105	110	PASS	110	75.43	1949	兵庫県 フジモトジム	M4	3		
小作 力雄	83	80.00	95	-100	100	100	68.27	1946	東京都 パワーハウス	M4	4		

93kg級 一般 SJR JR M1

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
齋藤 学	93	91.90	195	205	210	210	132.68	1981	北海道 苫小牧マッスルクラブ	一般	1		
長谷川 直輝	93	92.70	200	-207.5	-210	200	125.83	1992	神奈川県 K'sGYM横浜	一般	2		
綿島 啓晃	93	90.60	190	-195	-200	190	120.89	1992	千葉県 Strength Gym Tokyo Bay	一般	3		
吉川 望	93	89.50	175	180	182.5	182.5	116.84	1986	大阪府 K's GYM	一般	4		
武田 宗久	93	92.25	180	182.5	-192.5	182.5	115.09	1978	東京都 個人	一般	5	M1	1
梁本 智弘	93	92.30	170	177.5	182.5	182.5	115.06	1986	大阪府 K's GYM	一般	6		
松永 浩二	93	88.00	160	175	180	180	116.26	1983	埼玉県 個人	一般	7		
義田 大峰	93	91.80	170	180	-185	180	113.78	1988	東京都 TXP	一般	8		
高木 啓樹	93	91.95	157.5	170	177.5	177.5	112.11	1981	埼玉県 ストロングライン	一般	9		
増子 裕馬	93	92.15	170	177.5	-182.5	177.5	112.00	1989	東京都 TXP	一般	10		
松尾 賢太郎	93	86.00	165	170	172.5	172.5	112.82	1989	神奈川県 筋トレクラブまっちゃん	一般	11		
中瀬 健太郎	93	92.35	160	172.5	-180	172.5	108.73	1995	愛知県 昭和SC	一般	12		
村上 恵造	93	90.30	170	-180	-182.5	170	108.34	1973	大阪府 マグナムフィットネスセンター	一般	13	M1	3
松井 竜一	93	91.80	170	-175	-175	170	107.46	1976	愛知県 東レ名古屋	一般	14	M1	4
三浦 雄一郎	93	92.35	155	162.5	170	170	107.15	1989	大阪府 スマイルクラブ	一般	15		
龍神 雅幸	93	85.85	150	152.5	-155	152.5	99.84	1970	兵庫県 個人	一般	16		
前田 晋介	93	89.00	142.5	147.5	152.5	152.5	97.92	1981	大阪府 バリバリジム	一般	17		
大黒 幸彦	93	87.00	105	-117.5	PASS	105	68.24	1960	大阪府 拳上集団	一般	18	M2	17
木之下 竜也	93	92.80	-140	-140	140	140	88.04	2001	兵庫県 神戸市立科学技術高等学校	SJR	1		
田野 智徳	93	92.20	160	165	170	170	107.24	1997	岡山県 エイブルスポーツクラブ	JR	1		
安達 賢一郎	93	84.30	150	155	162.5	162.5	107.49	1997	広島県 個人	JR	2		
安達 隆太	93	92.60	150	160	-162.5	160	100.72	1997	神奈川県 個人	JR	3		
臼井 将一郎	93	85.75	135	142.5	-157.5	142.5	93.35	1998	岡山県 関西学連	JR	4		
下田 祐貴	93	91.25	-125	-125	125	125	79.25	1996	埼玉県 ストロングライン	JR	5		
中谷 章	93	90.25	-175	180	-182.5	180	114.75	1974	愛知県 POWER BOMB! GYM	M1	2		
齊藤 勇紀	93	92.60	160	165	170	170	107.01	1978	広島県 瀬野川トレーニングクラブ	M1	5		
松沼 光紀	93	92.60	155	162.5	170	170	107.01	1971	東京都 TXP	M1	6		
池澤 孝泰	93	91.70	152.5	160	-165	160	101.19	1970	東京都 TXP	M1	7		
橋本 真	93	88.20	-140	-145	150	150	96.77	1975	兵庫県 明石ベンチプレス同好会	M1	8		
稲見 大地	93	85.10	147.5	-150	-155	147.5	97.04	1971	京都府 京都府パワーリフティング協会	M1	9		
中溝 浩正	93	-	-	-	-	欠場	-	1976	大阪府 個人	M1	欠場		
西野 涉	93	-	-	-	-	欠場	-	1971	大阪府 K's GYM	M1	欠場		

93kg級 M2 M3 M4

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
井上 正雄	93	91.95	170	-177.5	177.5	177.5	112.11	1969	神奈川県 パワエリジム	M2	1		
渡邊 薫	93	92.40	167.5	170	-172.5	170	107.12	1967	神奈川県 スーパーパワーアサマトレーニングクラブ	M2	2		
中澤 禎郁	93	92.90	160	167.5	-172.5	167.5	105.28	1966	大阪府 K's GYM	M2	3		
今西 勝巳	93	91.10	165	-175	-175	165	104.69	1963	神奈川県 横濱ベンチラバーズ	M2	4		
田口 充宏	93	91.65	160	-170	-172.5	160	101.22	1964	大阪府 ゴールドジム梅田大阪	M2	5		
目黒 英一	93	92.20	160	-170	-170	160	100.93	1969	茨城県 パワーハウスつくば	M2	6		
川上 歩	93	92.50	150	160	-165	160	100.77	1968	千葉県 BIG BEAR GYM	M2	7		
齋田 誠	93	90.80	150	155	-160	155	98.51	1960	神奈川県 横濱ベンチラバーズ	M2	8		
佐野 修	93	91.30	150	155	-157.5	155	98.24	1963	東京都 個人	M2	9		
秋庭 和幸	93	92.15	-150	152.5	155	155	97.80	1967	兵庫県 川西バーベル協会	M2	10		
東野 正一	93	91.85	145	147.5	152.5	152.5	96.37	1965	大阪府 WTC藤井寺	M2	11		
伊藤 和昭	93	88.95	142.5	147.5	150	150	96.34	1967	和歌山県 和歌山県パワーリフティング協会	M2	12		
水引 順一	93	90.80	145	150	-155	150	95.33	1968	東京都 個人	M2	13		
羽田野 正	93	91.90	140	150	-157.5	150	94.77	1961	東京都 個人	M2	14		
村中 悟	93	92.25	-142.5	142.5	-152.5	142.5	89.86	1964	富山県 高岡 TC	M2	15		
飯田 浩充	93	92.20	120	130	-135	130	82.00	1967	兵庫県 マッスルプロダクション	M2	16		
新屋敷 弘明	93	-	-	-	-	欠場	-	1966	東京都 個人	M2	欠場		
安楽 友宏	93	89.30	140	145	-150	145	92.94	1956	大阪府 I. W. GG	M3	1		
高橋 忠三	93	87.55	122.5	-127.5	127.5	127.5	82.58	1959	宮城県 トレーニングジム錬磨	M3	2		
高宮 昇八	93	90.70	105	-115	-117.5	105	66.77	1953	埼玉県 THE CHAWPIONS	M3	3		
花田 隆	93	89.20	95	-100	100	100	64.13	1953	兵庫県 マッスルプロダクション	M3	4		
杉崎 幹男	93	91.25	115	120	-122.5	120	76.08	1948	神奈川県 横濱ベンチラバーズ	M4	1		
太田 孝美	93	88.85	100	105	-110	105	67.48	1946	大阪府 個人	M4	2		
立野 正勝	93	85.25	100	-105	-110	100	65.72	1941	東京都 Team Ponze	M4	3		

105kg級

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
金井 誠基	105	100.10	210	-215	215	215	130.79	1972	福岡県 プレスタ	一般	1		
山下 保樹	105	103.10	200	212.5	215	215	129.32	1991	大阪府 8suki gym	一般	2		
葛西 昌彦	105	104.80	210	215	-217.5	215	128.56	1971	大阪府 K's GYM	一般	3	M1	1
伊藤 智	105	104.35	210	-215	-217.5	210	125.76	1966	大阪府 K's GYM	一般	4	M2	1
後藤 衆治	105	103.10	200	-210	-210	200	120.30	1968	広島県 瀬野川トレーニングクラブ	一般	5	M2	2
梅林 恭行	105	103.65	190	195	-197.5	195	117.06	1983	福岡県 プレスタ	一般	6		
林 竜也	105	103.85	195	-205	-205	195	116.98	1991	神奈川県 湘南BP	一般	7		
阿久津 貴史	105	101.00	185	192.5	-200	192.5	116.69	1982	東京都 TXP	一般	8		
堀口 耀介	105	101.30	175	190	-212.5	190	115.05	1993	東京都 TXP	一般	9		
高本 樹	105	100.65	170	180	-190	180	109.27	1993	東京都 TXP	一般	10		
稲垣 匠真	105	104.50	180	-190	-190	180	107.74	1991	愛知県 ゴールドジム金山	一般	11		
作原 恵太	105	103.90	160	165	-170	165	98.97	1985	千葉県 新日鐵住金君津ボテビル同好会	一般	12		
中村 享聖	105	104.10	160	165	-170	165	98.90	1988	福岡県 substance(x)	一般	13		
三宅 綾	105	95.65	-160	160	-170	160	99.22	1970	神奈川県 個人	一般	14	M1	4
澤井 翼	105	98.45	150	155	157.5	157.5	96.46	1993	滋賀県 安曇川OBウエイトリフター	一般	15		
辻村 明德	105	-	-	-	-	欠場	-	1979	大阪府 個人	一般	欠場	M1	-
吉田 啓英	105	-	-	-	-	欠場	-	1973	東京都 帝京平成大学東京ベンチプレスサークル	一般	欠場	M1	-
増澤 賢治	105	-	-	-	-	欠場	-	1977	長野県 個人	一般	欠場		
中島 聡	105	-	-	-	-	欠場	-	1985	北海道 個人	一般	欠場		
森 政也	105	102.95	120	127.5	132.5	132.5	79.74	2001	埼玉県 浦和学院高校パワーリフティング部	SJR	1		
瀧本 高博	105	103.45	205	215.5	-220.5	215.5	129.46	1996	長野県 B.A.D.	JR	1		
シルバヒデキ	105	95.35	132.5	140	-147.5	140	86.94	1999	東京都 日本体育大学	JR	2		
岩井 敦史	105	93.65	170	-180	-180	170	106.44	1977	大阪府 WTC藤井寺	M1	2		
吉野 憲二	105	101.00	150	160	165	165	100.02	1972	大阪府 個人	M1	3		
西田 昇一郎	105	103.55	145	150	-152.5	150	90.08	1976	千葉県 新日鐵住金君津ボテビル同好会	M1	5		
佐久間 正敏	105	100.40	140	145	-150	145	88.11	1977	福井県 タケイパワージム	M1	6		
大上 哲司	105	102.35	172.5	175	180	180	108.56	1969	兵庫県 マッスルプロダクション	M2	3		
吉松 武志	105	104.05	175	-177.5	-177.5	175	104.91	1968	千葉県 港腕パワークラブ	M2	4		
小野 和久	105	100.00	160	170	-180	170	103.46	1962	宮城県 個人	M2	5		
前田 光生	105	102.35	160	-172.5	-172.5	160	96.50	1960	兵庫県 チーム鉄腕	M2	6		
堀 康彦	105	101.90	145	150	-152.5	150	90.62	1968	神奈川県 個人	M2	7		
森本 篤	105	101.30	135	140	145	145	87.80	1968	大阪府 個人	M2	8		
長島 義孝	105	97.10	120	128	-130	128	78.86	1944	京都府 京都パワーリフティングクラブ	M4	1		

120kg級 120kg超級

氏名	階級	体重	BP1	BP2	BP3	Best	Wilks	生年	都道府県 所属	区分	順位	W	W
小原 一将	120	117.35	215	225	-231.5	225	130.06	1991	兵庫県 マッスルプロダクション	一般	1		
和田 高平	120	119.60	215	222.5	-232	222.5	128.02	1964	大阪府 K's GYM	一般	2	M2	1
古賀 宏和	120	111.70	210	220	-225	220	128.88	1991	福岡県 BEAST GYM	一般	3		
淵野 茂樹	120	117.75	200	210	212.5	212.5	122.73	1977	宮崎県 個人	一般	4	M1	1
山本 貴之	120	118.90	190	200	202.5	202.5	116.67	1995	愛知県 個人	一般	5		
宮本 覚道	120	117.50	192.5	200	-210	200	115.57	1978	岐阜県 あかつき幼稚園	一般	6	M1	2
加瀬 智	120	120.00	190	-200	-205	190	109.24	1991	神奈川県 K's GYM 横浜	一般	7		
原 新一	120	115.30	177.5	182.5	-200	182.5	105.97	1973	愛知県 東レ名古屋	一般	8	M1	3
川島 悠矢	120	117.55	170	180	-190	180	104.00	1995	徳島県 個人	一般	9		
井上 健	120	107.60	170	-175	175	175	103.71	1970	大阪府 バリバリジム	一般	10	M1	5
西古 裕志	120	116.95	165	172.5	-177.5	172.5	99.79	1972	愛知県 東レ名古屋	一般	11	M1	7
川野 智成	120	117.50	-170	170	-177.5	170	98.23	1980	東京都 パワーハウス	一般	12		
井上 拳史郎	120	-	-	-	-	欠場	-	1996	神奈川県 個人	一般	欠場	JR	-
日垣 宏章	120	-	-	-	-	欠場	-	1981	東京都 ノーリミッツ	一般	欠場		
武田 裕介	120	-	-	-	-	欠場	-	1985	東京都 TXP	一般	欠場		
名越 勇樹	120	108.55	200	-210	210	210	124.10	1998	茨城県 BIG GUNS	JR	1		
柏木 悠太郎	120	-	-	-	-	欠場	-	1997	埼玉県 ストロングライン	JR	欠場		
中村 敏雄	120	113.80	170	180	-185	180	104.89	1970	東京都 TXP	M1	4		
山森 智行	120	110.00	175	-182.5	-185	175	102.99	1972	大阪府 K's GYM	M1	6		
安井 篤史	120	118.55	160	167.5	172.5	172.5	99.46	1972	大阪府 シロクマパワージム	M1	8		
岡本 康央	120	106.05	165	-175	-175	165	98.26	1972	福井県 タケイパワージム	M1	9		
湯浅 正信	120	112.90	200	205	-210	205	119.72	1962	埼玉県 THE CHAMPIONS	M2	2		
井上 俊二	120	112.40	-170	170	-175	170	99.41	1961	宮崎県 MPC	M2	3		
渡辺 明彦	120	107.70	160	170	-180	170	100.71	1958	千葉県 新日鐵住金君津ボディビル同好会	M3	1		
永田 聡	120超	142.30	225	-245	-245	225	125.43	1972	埼玉県 THE CHAMPIONS	一般	1		
一宮 正博	120超	121.85	190	-200	200	200	114.59	1981	宮崎県 トレーニングジムフリーウエイト	一般	2		
山崎 英二郎	120超	125.30	185	192.5	-200	192.5	109.64	1969	大阪府 個人	一般	3	M2	1
日沼 公	120超	161.15	180	-190	-190	180	98.57	1978	東京都 個人	一般	4		
海老田 旭	120超	136.30	160	170	-180	170	95.39	1979	東京都 TXP	一般	5	M1	1
氏家 一郎	120超	144.00	132.5	140	145	145	80.69	1957	神奈川県 神奈川県警	M3	1		

※同重量、同体重の場合、先に試技をした選手の方が順位が上となります。

文部科学大臣杯

鈴木 佑輔

最優秀選手賞

鈴木 佑輔

優秀選手賞

一般

久米 亮平

サブジュニア

富田 慎之介

ジュニア

森木 翼

マスターズ1

小笠原 泰司

マスターズ2

高田 勇二

マスターズ3

猪須 純一

マスターズ4

白川 猛士